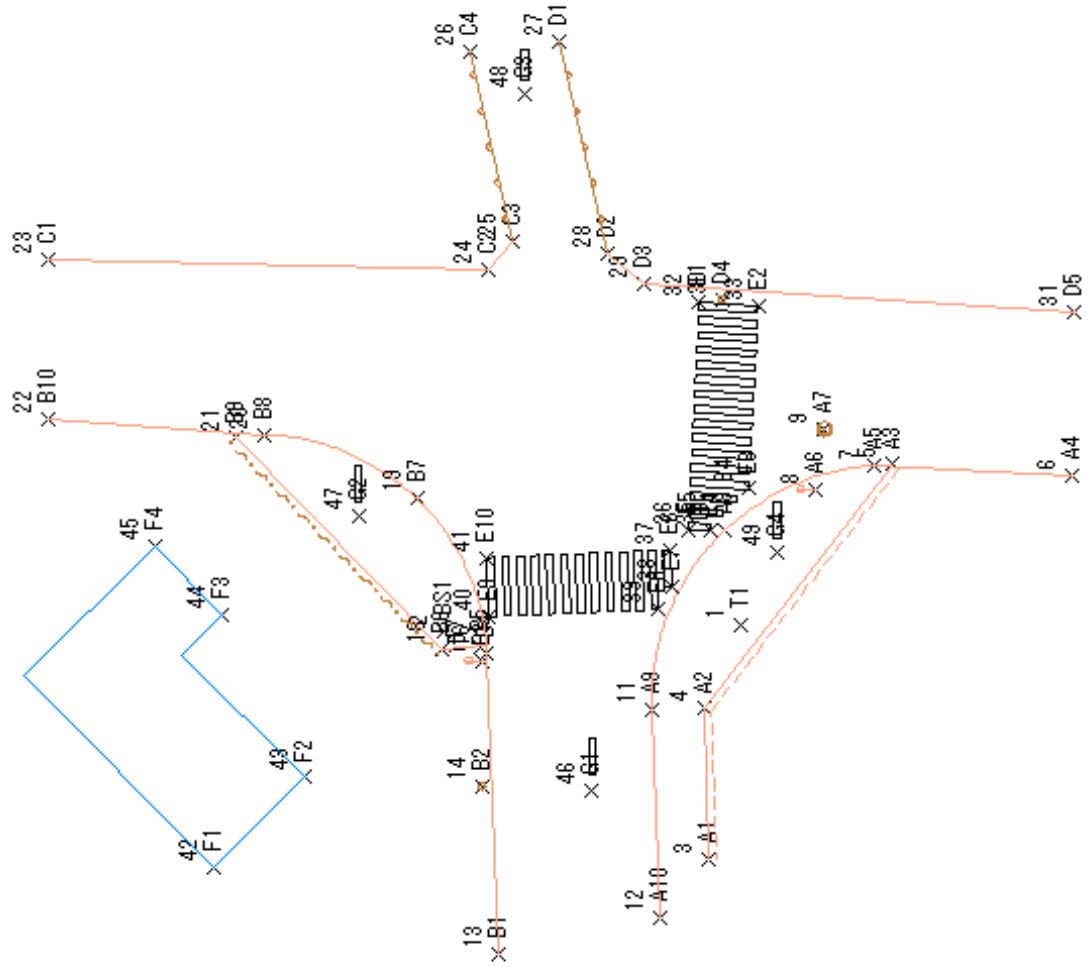


DM 図面作成

TREND-FIELDからデータを取り込み、図面を自動作成します。
また、座標値のわかっている測点を基に DM データを入力して、図面を自動作成します。
その後、図面を編集する流れで解説します。



※解説内容がオプションプログラムの説明で
ある場合があります。
ご了承ください。



1. 入力例の説明	1
2. 作業現場情報の入力	2
2-1 [現場管理]を起動する	2
2-2 工区を作成する	3
2-3 現場を作成する	4
3. TREND-FIELDで現況観測した場合・・・	
TREND-FIELDデータの取り込み	5
3-1 [CAD]を起動する	5
3-2 TREND-FIELDデータを取り込む	6
4. 測点の座標値がわかっている場合・・・	
測点の取り込み	7
4-1 座標地番SIMAを読み込む	7
4-2 [CAD]を起動する	8
4-3 レイヤを設定する	9
4-4 測点を入力する	10
5. DMデータの入力①	12
5-1 平行線を入力する(A1→A2→A3)	12
5-2 線・円弧・線を入力する(A4→A5→A8→A9→A10)	14
5-3 点記号を入力する(A6、A7)	15
6. DMデータの入力②	16
6-1 線・円弧・線を入力する(B1→B4 B7→B8→B10)	16
6-2 線を入力する(B5→B6)	17
6-3 平行線を入力する(B6→B9)	18
6-4 点記号を入力する(B2、B3)	20
7. DMデータの入力③	21
7-1 線を入力する(C1→C2→C3→C4)	21
8. DMデータの入力④	23
8-1 線を入力する(D1→D2→D3→D5)	23
8-2 点記号を入力する(D4)	25

9. 横断歩道の入力	26
9-1 横断歩道を入力する	26
10. 建物形状の入力	28
10-1 建物形状を入力する	28
11. 標高値の入力	30
11-1 標高値を入力する	30
12. 図面の自動作成	32
12-1 図面を配置する	32
13. 図面の編集	35
13-1 線記号を反転する	35
13-2 線を延長する	36
13-3 余分な線をカットする	36
14. 現場データの保存	37
14-1 現場データを保存する	37
15. 図面の印刷	39
15-1 図面を印刷する	39
16. 拡張DMデータの出力	40
16-1 拡張DMデータを出力する	40
参考. コンタの自動作成	41
1 座標地番SIMAデータを読み込む	41
2 [CAD]を起動する	42
3 測点を入力する	43
4 コンタ線を自動入力する	45
5 コンタ線を範囲移動する	46

1 入力例の説明

本章では、下図の流れに従い、TREND-FIELDで現況観測した場合と測点の座標値がわかっている場合の操作を解説します。

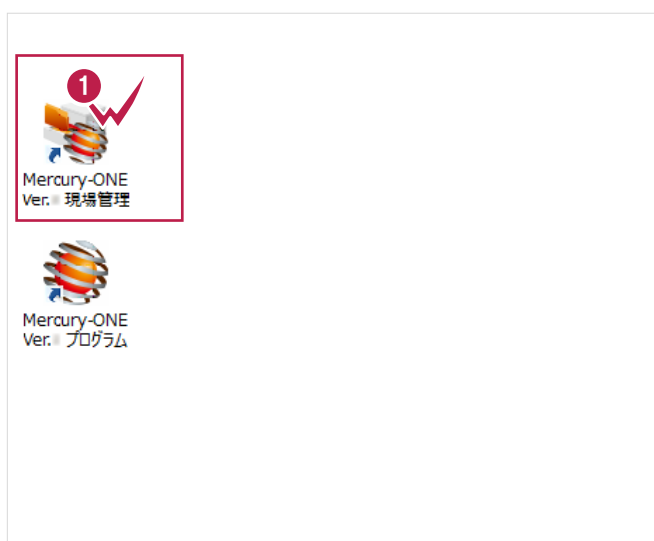


2 作業現場情報の入力

[Mercury-ONE 現場管理]では、Mercury-ONEで作成したデータを管理します。
作業現場情報を詳細に入力することで、複数の現場(または図面)が管理しやすくなります。
また、複数の現場をまとめた「工区」という単位で管理することもできます。
工区は、作業現場の地区や時期などの条件によって分類することをお勧めします。

2-1 [現場管理]を起動する

[Mercury-ONE 現場管理]を起動します。



1 デスクトップ画面で[Mercury-ONE 現場管理]をダブルクリックします。



2-2

工区を作成する

関連のある複数の現場データをまとめる単位として[工区]があり、親工区とサブ工区に分けて現場データを階層管理することもできます。

工区には名称をつけることができ、作成できる工区数にも制限はありません。(ハードディスク容量に依存)

工区で現場を分けることや現場情報を詳細に入力することにより、現場データを管理しやすくなります。

(工区の使用例：担当者別、発注者別、地区別、年度別、月別)

注意

現場の詳細は現場データを少なくとも1度は保存しなければ設定できません。



- 1 [ホーム]タブをクリックします。
- 2 [工区]グループ-[工区作成]をクリックします。
- 3 [工区名]を入力します。
- 4 [OK]をクリックします。



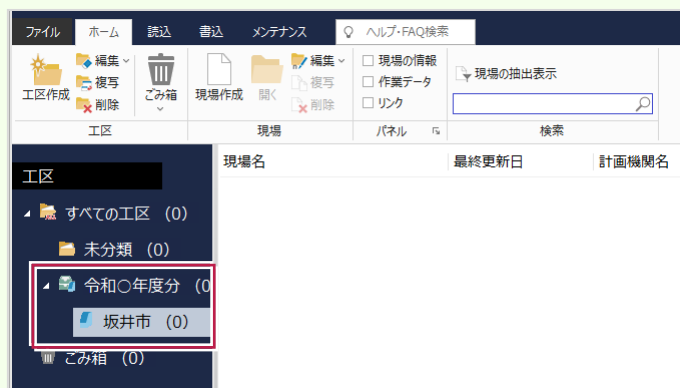
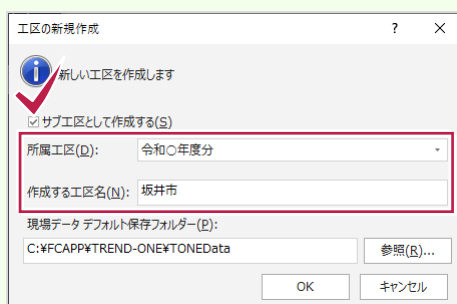
メモ

工区の階層化について

[サブ工区として作成する]にチェックを入れて、所属工区で親工区を選択することにより、親工区とサブ工区の2階層で仕分けすることができます。

工区数が多くなった場合でも管理がしやすくなります。

(下図の例では、親工区を「令和〇年度分」、サブ工区を「坂井市」と設定しています。)



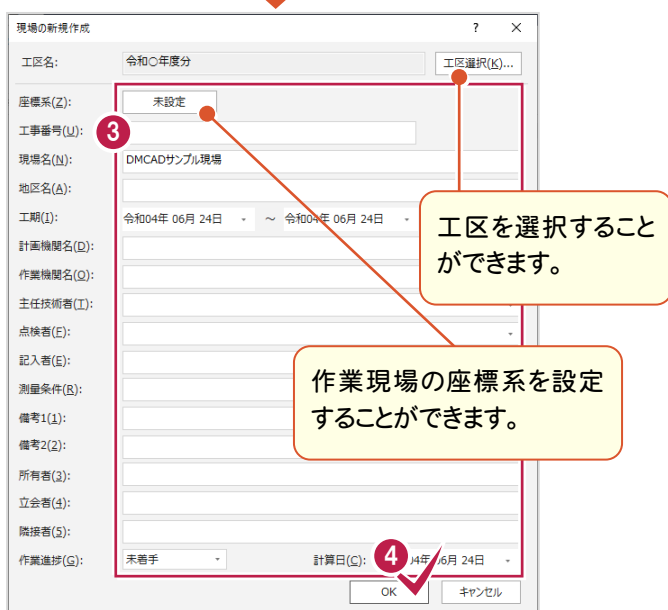
2-3

現場を作成する

現場を作成します。

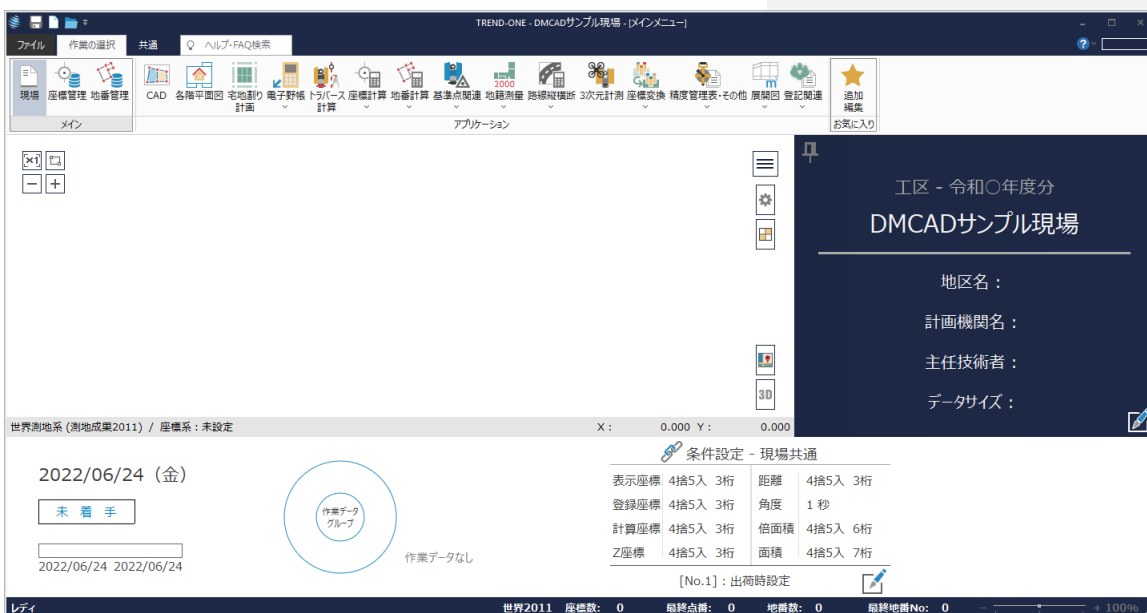


- 1 入力した工区をクリックします。
ここでは工区を新規作成したため、現時点では現場が存在しません。
- 2 [現場]グループ-[現場作成]をクリックします。
- 3 [現場名]など、必要な項目を入力します。
- 4 [OK]をクリックします。
メインメニューが起動します。



メモ 起動モードについて

サーバーインストールした場合、ここで現場占有か現場共有かを選択することが可能です。詳細はマニュアル「共同作業の運用方法」を参照してください。



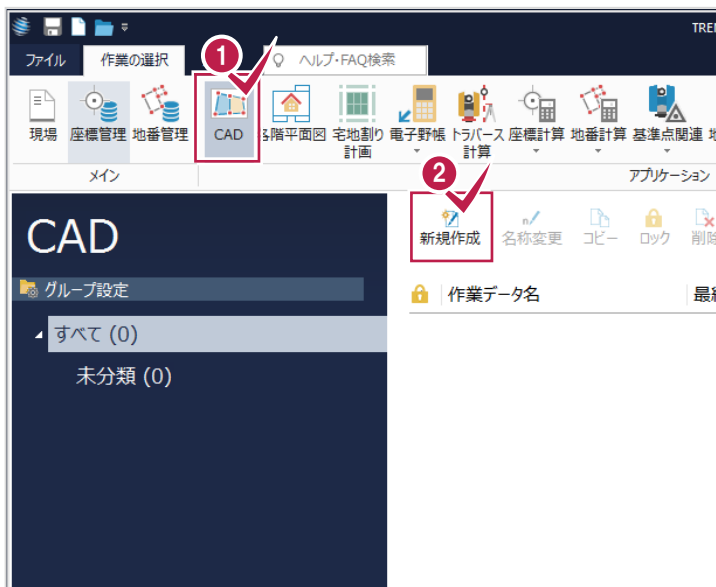
3 TREND-FIELDで現況観測した場合・・・ TREND-FIELDデータの取り込み

TREND-FIELDで現況観測した場合は、TREND-FIELDのデータを取り込みます。

入力例では、弊社で用意したTREND-FIELDのデータ「現況観測サンプルデータ.XFD」を取り込み、CADで編集作業を行う操作を解説します。

3-1 [CAD]を起動する

[CAD]を起動します。

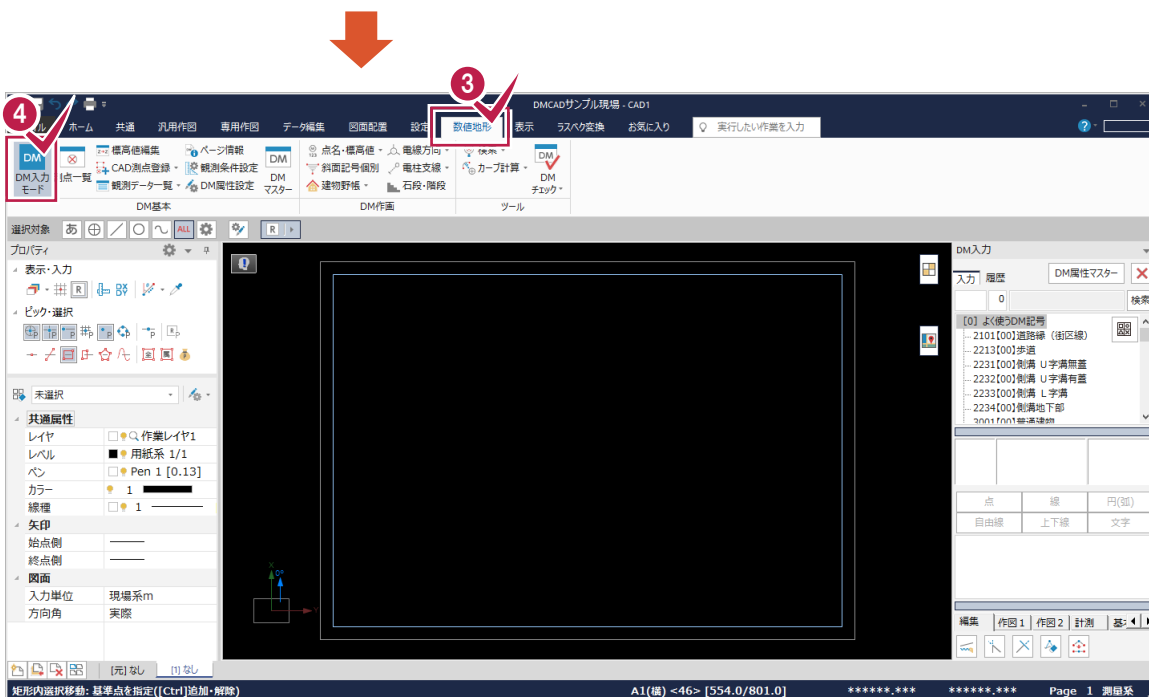


1 2

メインメニューで[作業の選択]タブー[アプリケーション]グループー[CAD]をクリックし、[新規作成]をクリックします。

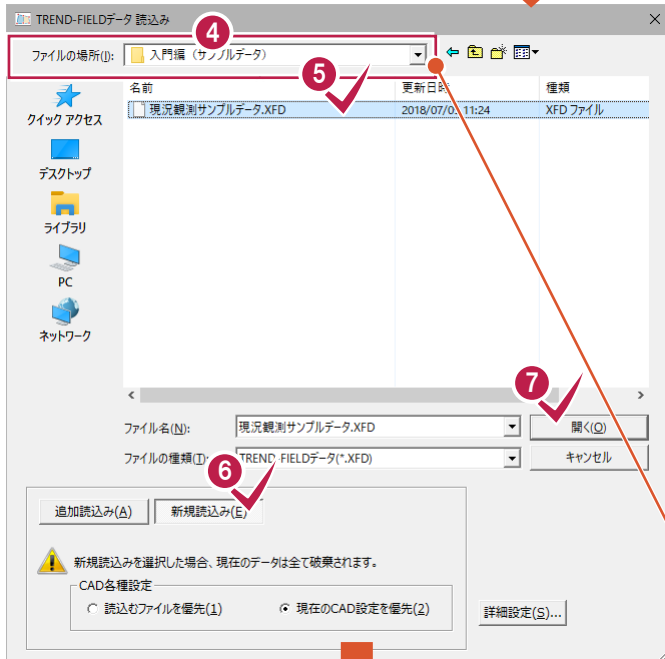
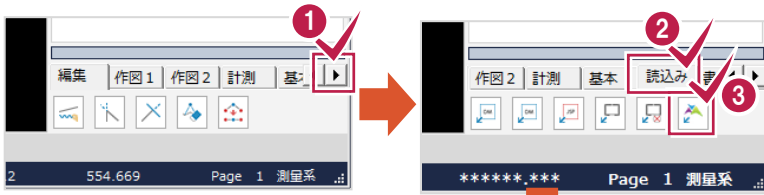
3 4

[数値地形]タブー[DM基本]グループー[DM入力モード]をクリックします。
DM入力専用のDMパネルが表示されます。



3-2 TREND-FIELDデータを取り込む

TREND-FIELDのデータを取り込みます。



1 2 3

タブを右へ移動して、[読み込み]—
[TREND-FIELDデータ読み込み]を
クリックします。
[TREND-FIELDデータ読み込み]ダイ
アログが表示されます。

4 5

ファイルの場所を選択して、「現況観
測サンプルデータ.XFD」をクリックし
ます。

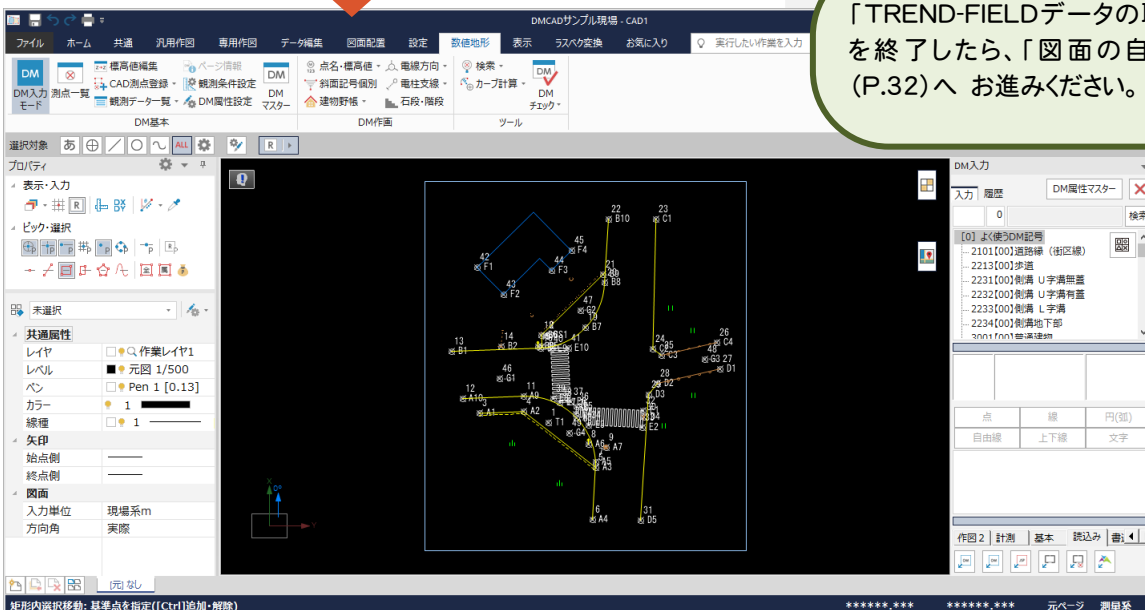
6 7

[新規読み込み]をクリックし、[開く]を
クリックします。
処理が実行され、データが読み込ま
れます。

8 [OK]をクリックします。

サンプルデータ「現況観測サンプルデータ.XFD」
は、[ヘルプ]メニュー—[マニュアル]からダウンロー
ド可能です。

「TREND-FIELDデータの取り込み」
を終了したら、「図面の自動作成」
(P.32)へ お進みください。



4 測点の座標値がわかっている場合・・・

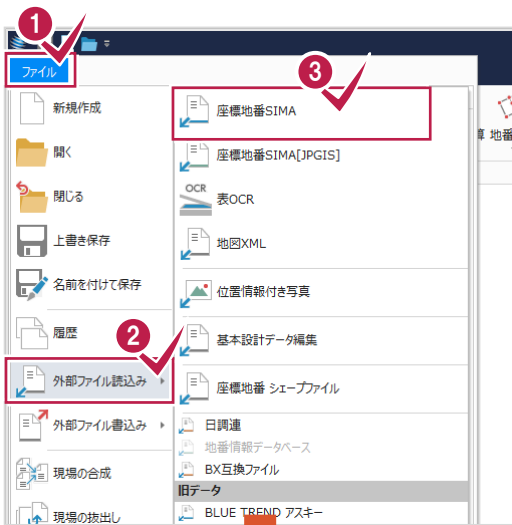
測点の取り込み

既知点座標と現況観測によって求められた測点を取り込みます。

入力例では、弊社で用意したSIMAデータ「座標地番データ(測点取り込み用).sim」から測点を取り込みます。

4-1 座標地番 SIMA を読み込む

弊社で用意したSIMAデータ「座標地番データ(測点取り込み用).sim」を読み込みます。

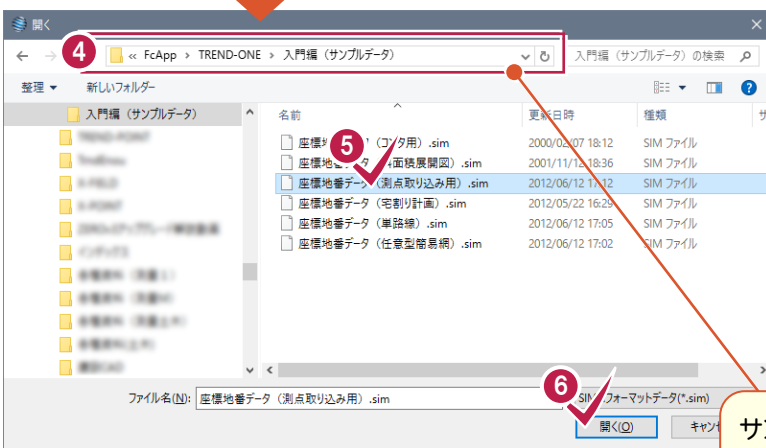


1 2 3

[ファイル]タブ→[外部ファイル読み込み]→[座標地番SIMA]をクリックします。

4 5 6

ファイルの場所を選択して「座標地番データ(測点取り込み用).sim」をクリックし、[開く]をクリックします。
[座標地番属性の設定]ダイアログが表示されます。



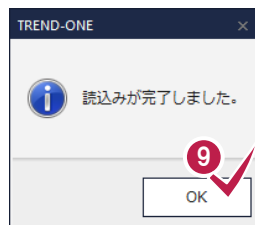
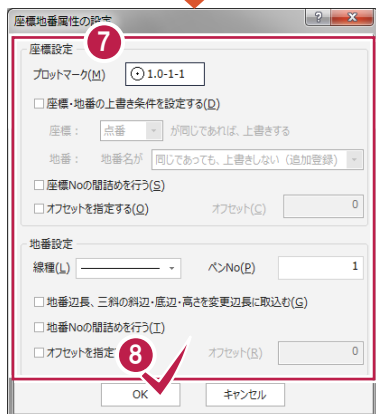
7 8

座標や地番に関する設定を確認し、[OK]をクリックします。
処理が実行され、データが読み込まれます。

9

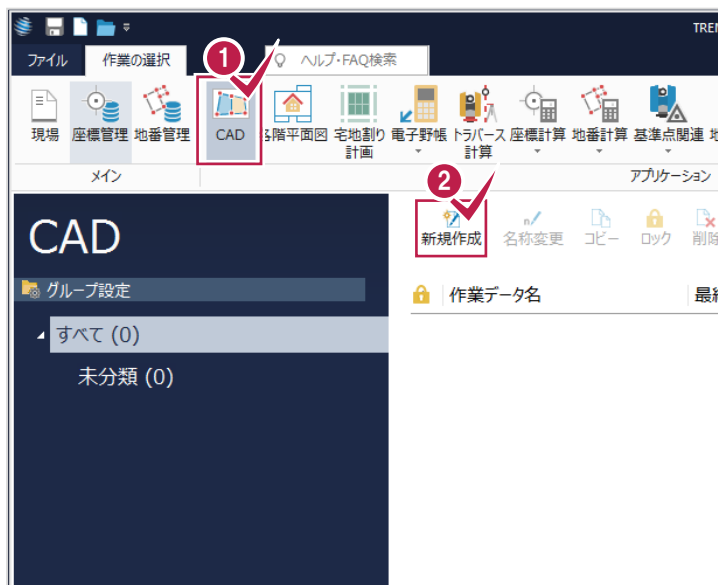
[OK]をクリックします。

サンプルデータ「座標地番データ(測点取り込み用)」は、[ヘルプ]メニュー→[マニュアル]からダウンロード可能です。



4-2 [CAD]を起動する

[CAD]を起動します。

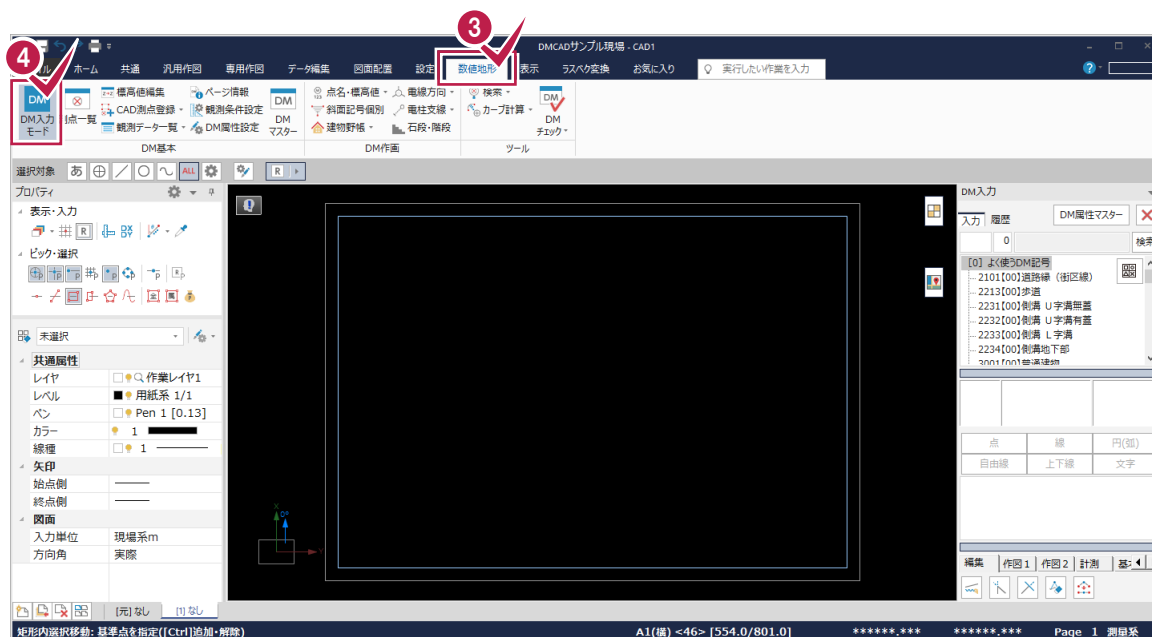


1 2

メインメニューで[作業の選択]タブ-[アプリケーション]グループ-[CAD]をクリックし、[新規作成]をクリックします。

3 4

[数値地形]タブ-[DM基本]グループ-[DM入力モード]をクリックします。
DM入力専用のDMパネルが表示されます。



4-3 レイヤを設定する

レイヤを設定します。



1 2

[設定]タブ-[設定]グループ-[レイヤ設定]をクリックします。

3

[読み込み]をクリックします。

4 5

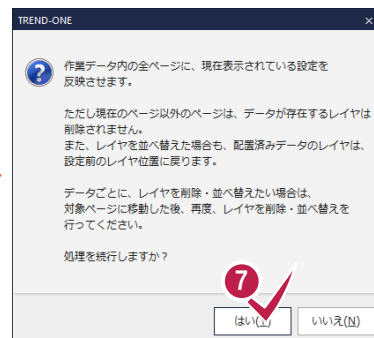
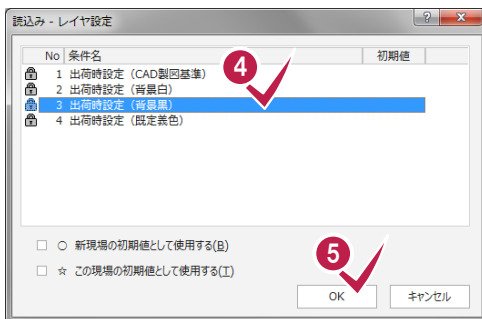
[出荷時設定(背景黒)]を選択し
[OK]をクリックします。
[レイヤ設定]ダイアログに戻ります。

6

[全ページ適用]をクリックします。

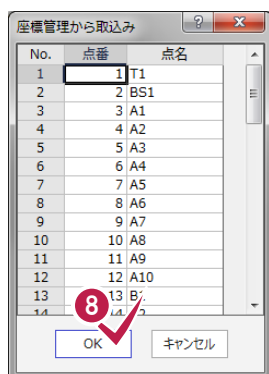
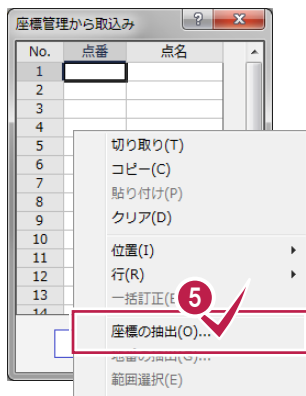
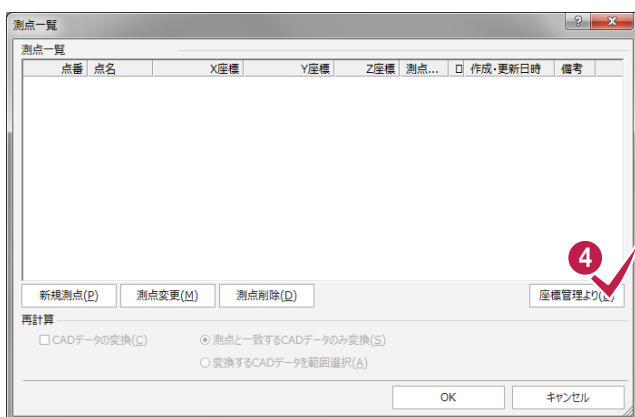
7

メッセージを読んで[はい]をクリック
します。



4-4 測点を入力する

測点を入力します。



1 2 3

ページタブバーで[元]ページに切り替え、専用コマンドの[基本]-[測点一覧]をクリックします。

4 [座標管理より]をクリックします。

5 [点番]または[点名]セルを右クリックして[座標の抽出]をクリックします。
[座標抽出]ダイアログが表示されます。

6 7 [座標抽出]タブの[抽出条件]で[全て]が選択されていることを確認して[抽出実行]をクリックします。

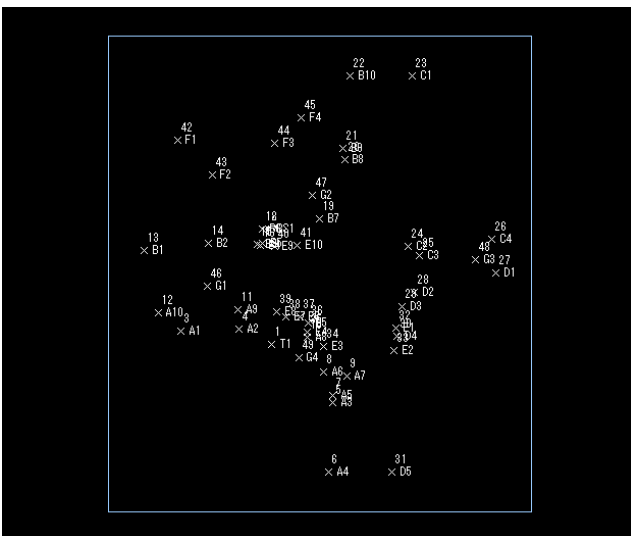
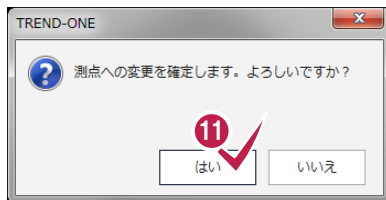
8 [OK]をクリックします。



9 取り込む座標を確認して[OK]をクリックします。
[測点一覧]ダイアログへ戻ります。

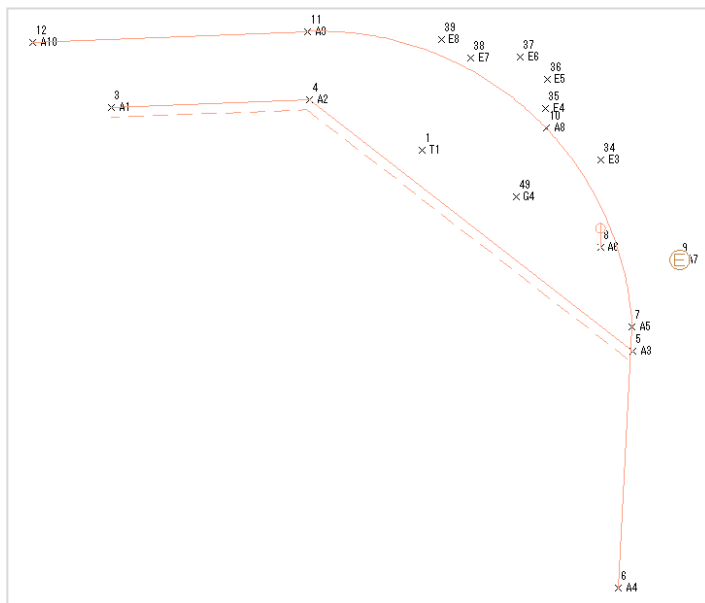
10 [OK]をクリックします。
確認のメッセージが表示されます。

11 [はい]をクリックします。
測点が入力されます。



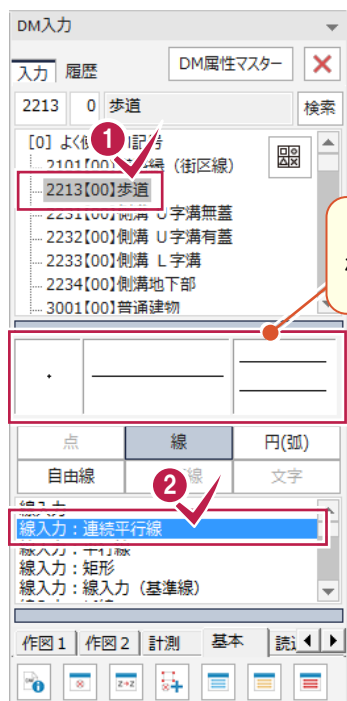
5 DM データの入力①

取り込んだ測点より①の部分(右図参照)のDMデータを入力します



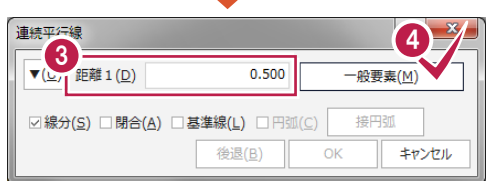
5-1 平行線を入力する(A1→A2→A3)

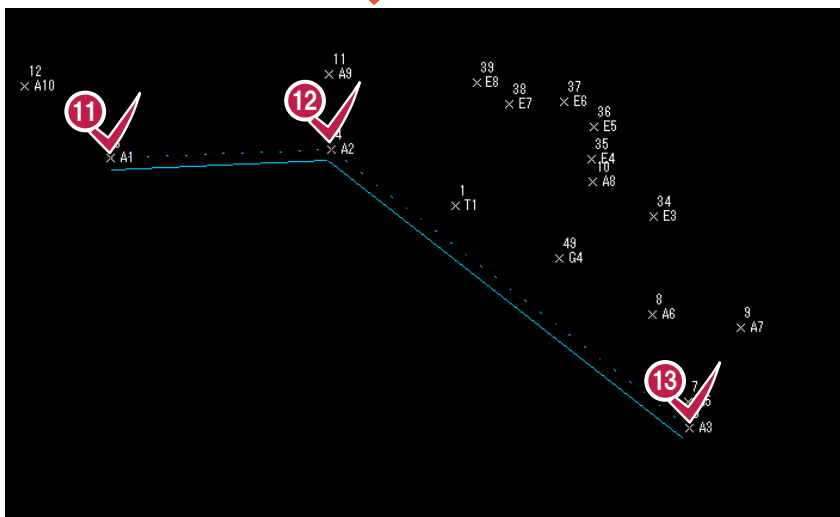
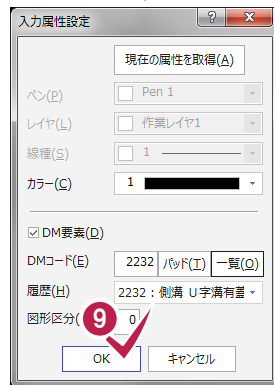
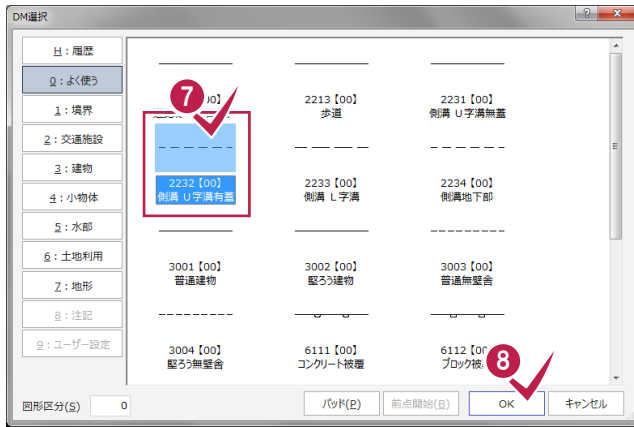
A1、A2、A3を、DM属性を設定した連続線と平行線で結線します。



[形状イメージ]が確認できます。

- 1 2 [[0]よく使うDM記号]ツリーの[2213【00】歩道]をクリックし、[線入力:連続平行線]をクリックします。
- 3 4 [連続平行線]ダイアログの[距離1]に「0.5」と入力し、[一般要素]をクリックします。
[入力属性設定]ダイアログが表示されます。
- 5 6 [DM要素]のチェックをオンにし[一覧]をクリックします。
[DM選択]ダイアログが表示されます。





7 8

「2232【00】側溝U字溝有蓋」を選択し、[OK]をクリックします。
[入力属性設定]ダイアログへ戻り、[DMコード]に「2232」と表示されます。

9

[OK]をクリックします。
[連続平行線]ダイアログへ戻り、ボタンに「2232:側溝 U字溝有蓋」と表示されます。

10

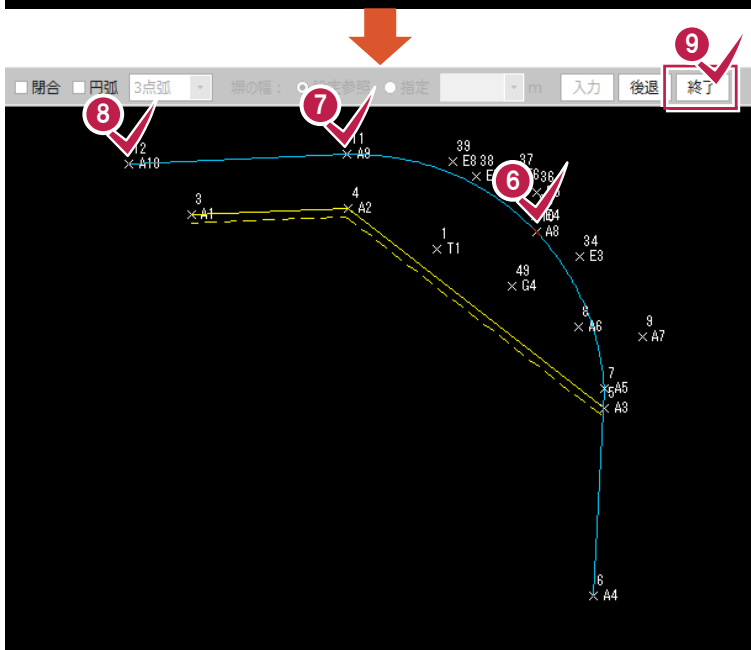
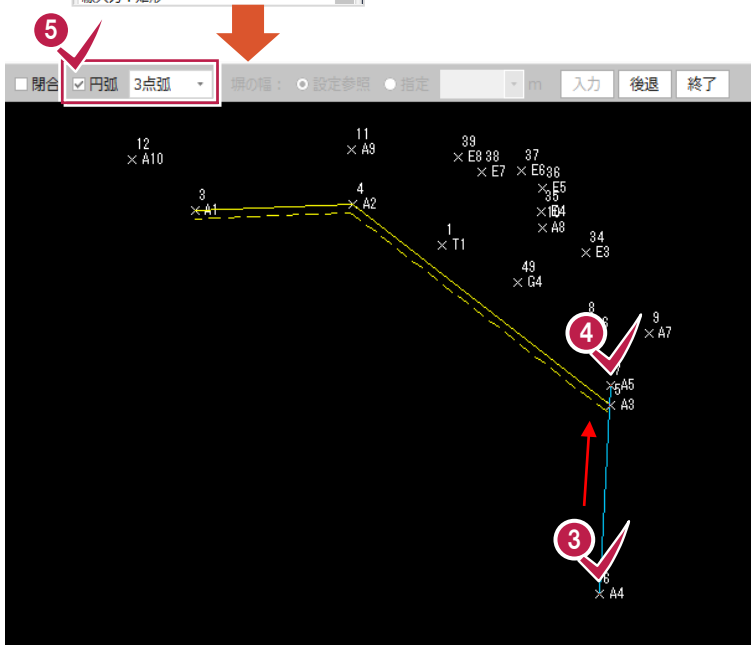
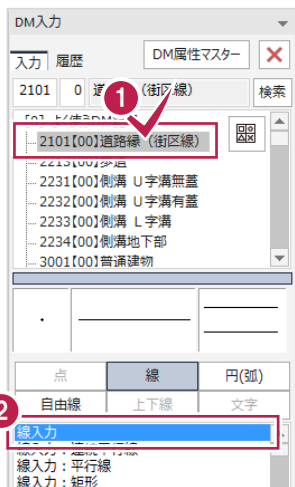
[基準線]のチェックをオンにします。

11 12 13 14

A1、A2、A3をクリックし、[連続平行線]ダイアログの[OK]をクリックします。
平行線が入力されます。

5-2 線・円弧・線を入力する(A4→A5→A8→A9→A10)

A4、A5、A8、A9、A10を、DM属性を設定した線と円弧で結線します。



1 2

[2101[00]道路線(街区線)]をクリックして、[線入力]が選択されていることを確認します。

3 4

A4、A5をクリックします。

5 インプットバーの[円弧]のチェックをオンにし、[3点弧]を選択します。

6 7

A8、A9をクリックします。
円弧が入力されます。

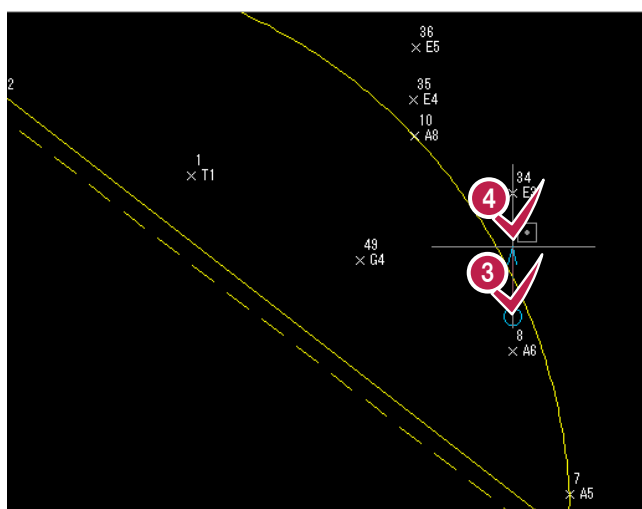
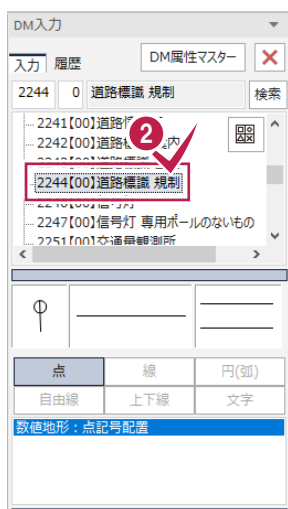
8 A10をクリックします。
線が入力されます。

9 [終了]をクリックします。

5-3

点記号を入力する(A6、A7)

A6に、DM属性を設定した道路標識の点記号を入力します。



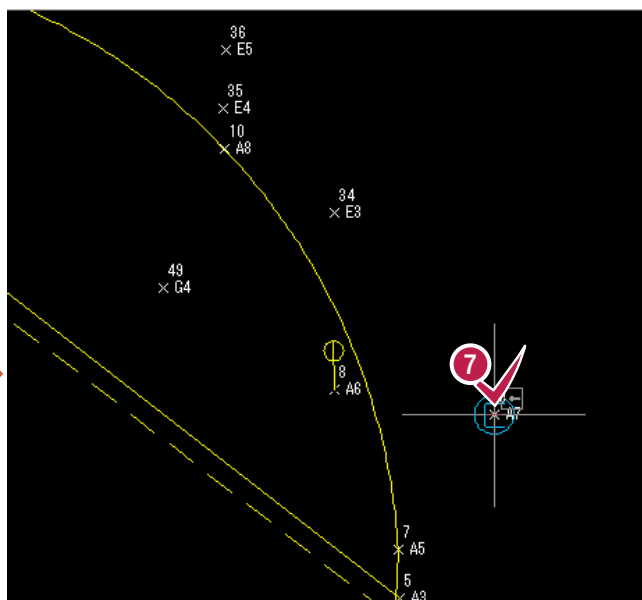
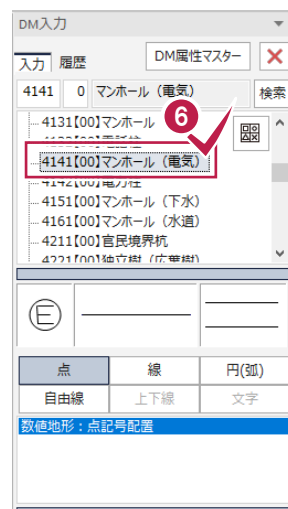
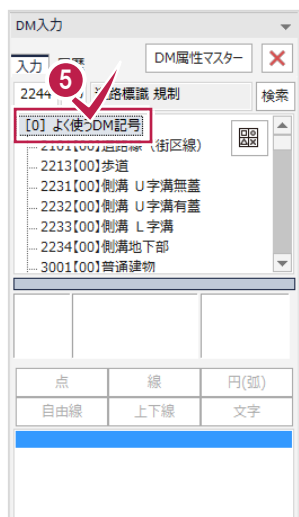
1 2

[[2] 交通施設] ツリーをクリックして、[2244【00】道路標識 規制] をクリックします。

3 4

A6をクリックし、点記号の方向をクリックします。

A7に、DM属性を設定したマンホールの点記号を入力します。



5 6

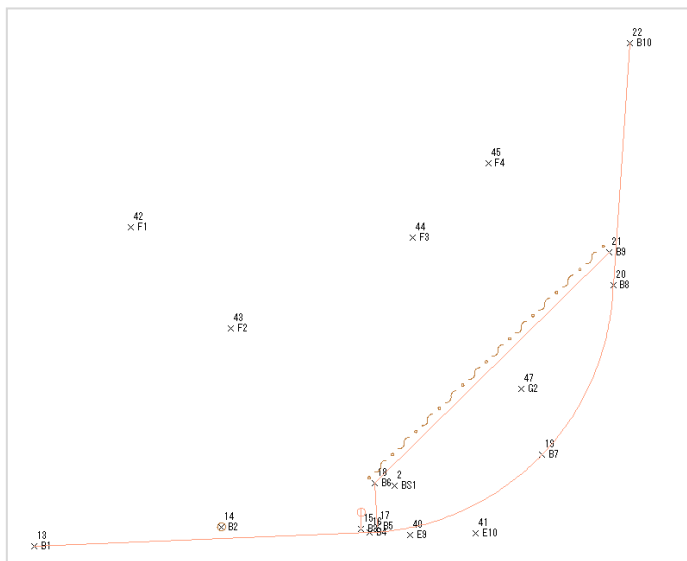
[[0] よく使うDM記号] ツリーをクリックして、[4141【00】マンホール (電気)] をクリックします。

7

A7をクリックします。

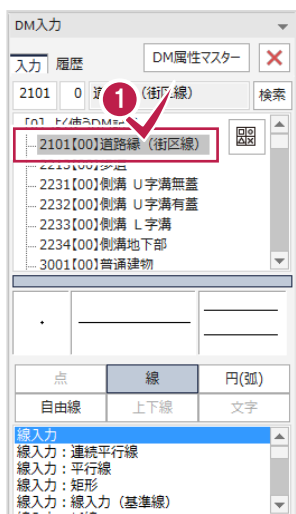
6 DM データの入力②

取り込んだ測点より②の部分(右図参照)のDMデータを入力します。

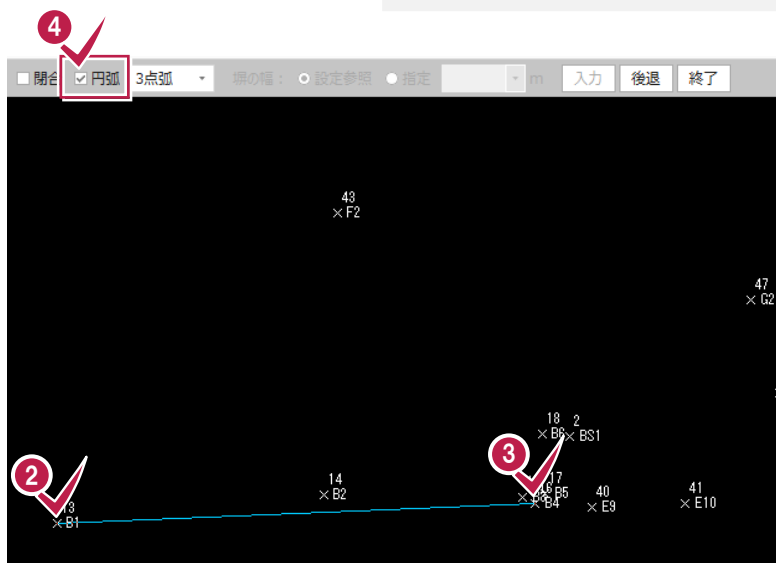


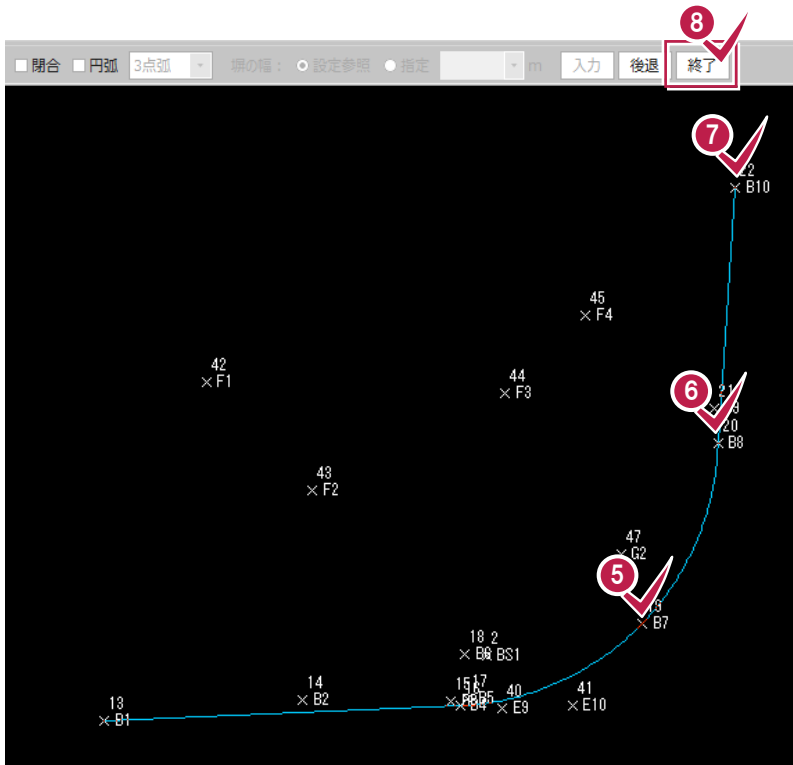
6-1 線・円弧・線を入力する(B1→B4→B7→B8→B10)

B1、B4、B7、B8、B9、B10を、DM属性を設定した線と円弧で結線します。



- 1 [[0]よく使うDM記号]ツリーの[2101[00]道路線(街区線)]をクリックします。
 - 2 3 4
- B1、B4をクリックし、インプットバーの[円弧]をクリックします。





5 6

B7、B8をクリックします。
円弧が入力されます。

7

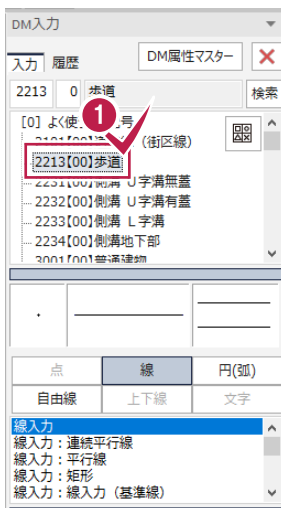
B10をクリックします。
線が入力されます。

8

[終了]をクリックします。

6-2 線を入力する(B5→B6)

B5、B6を、DM属性を設定した線で結線します。

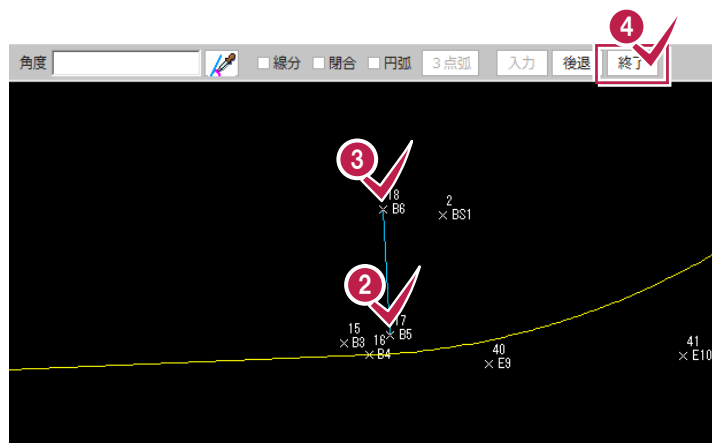


1

[2213【00】歩道]をクリックします。

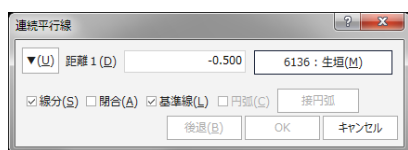
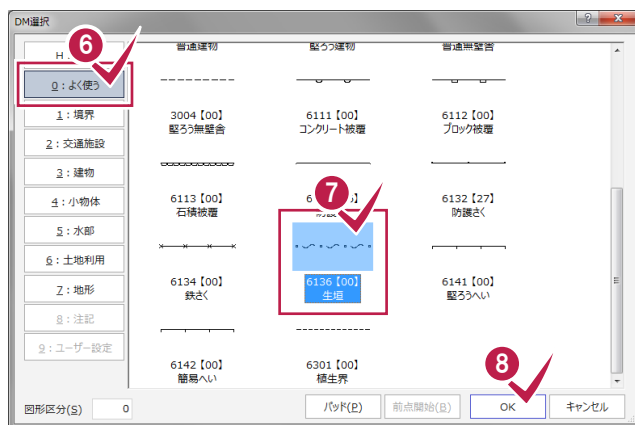
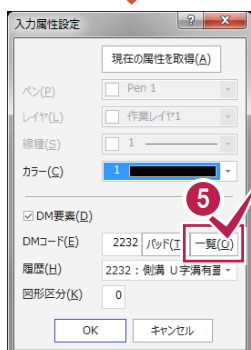
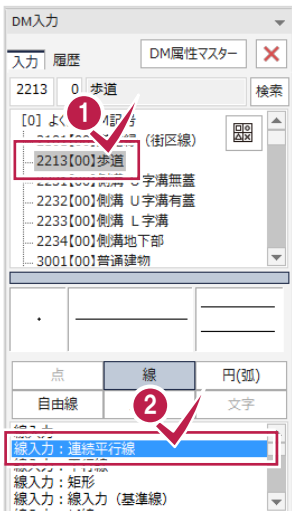
2 3 4

B5、B6をクリックし、インプットバーの
[終了]をクリックします。



6-3 平行線を入力する(B6→B9)

B6、B9を、DM属性を設定した連続線と平行線で結線します。



1 2

[2213【00】歩道]が選択されていることを確認して[線入力: 連続平行線]をクリックします。

3 4

[連続平行線]ダイアログの[距離]に「-0.5」と入力し[連続平行線]ダイアログの[2232: 側溝 U字溝有蓋]と表示されているボタンをクリックします。

5

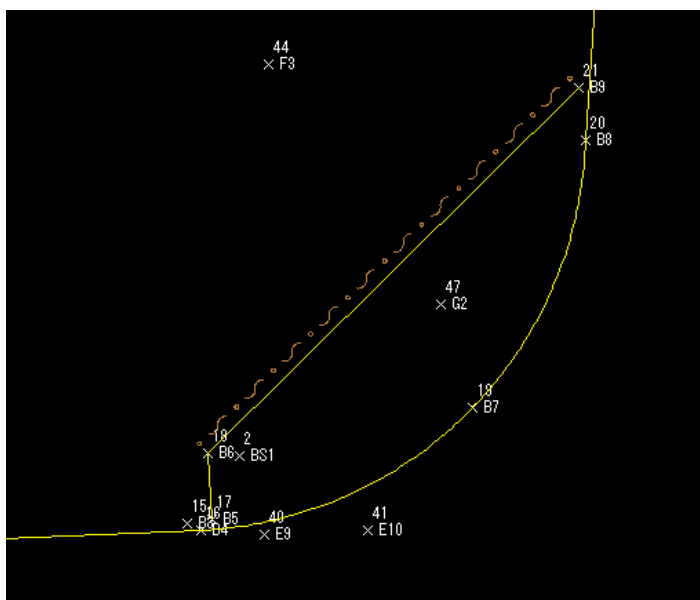
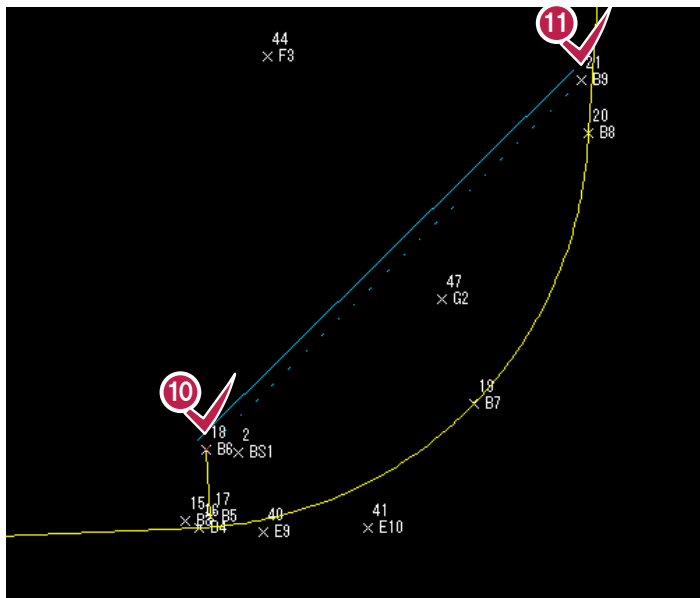
[一覧]をクリックします。

6 7 8

[よく使う]をクリックし、[6136【00】生垣]を選択し[OK]をクリックします。
[入力属性設定]ダイアログへ戻り、[DMコード]に「6136」と表示されます。

9

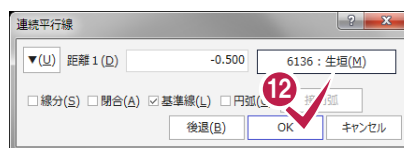
[OK]をクリックします。
[連続平行線]ダイアログへ戻り、ボタンに「6136: 生垣」と表示されます。



10 11

B6、B9をクリックします。

12

[連続平行線]ダイアログの[OK]
をクリックします。
平行線が入力されます。

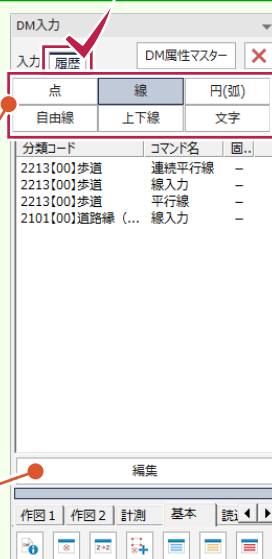
メモ

汎用履歴コマンドタブについて

今までに使用した汎用コマンドを
使用して入力することができます。

各タブをクリックすると下のリストの
コマンド履歴が切り替わります。

履歴を編集することもできます。

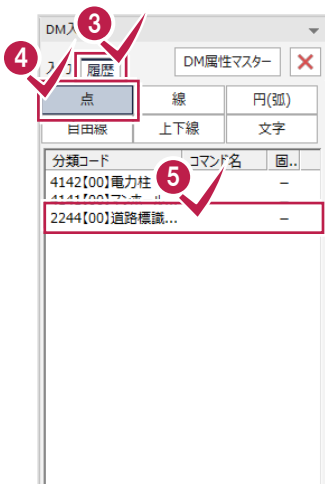
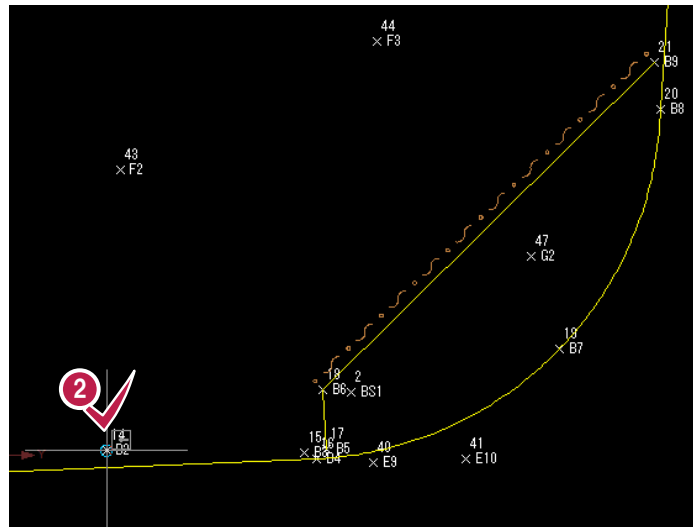


6-4 点記号を入力する(B2、B3)

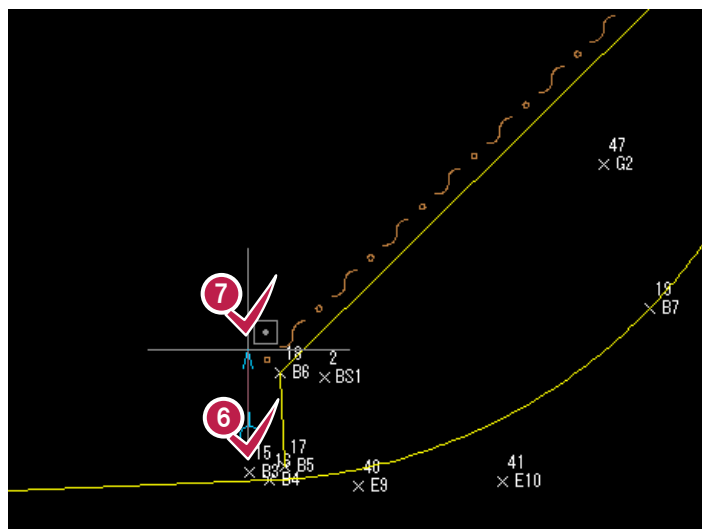
B2、B3に、DM属性を設定した点記号を入力します。



- 1 [[0]よく使うDM記号]ツリーの[4142【00】電力柱]をクリックします。
- 2 B2をクリックします。

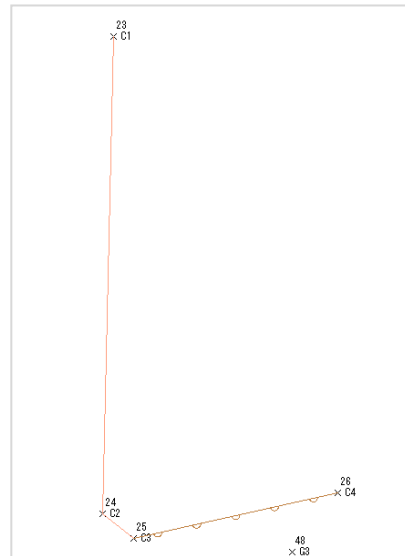


- 3 4 5
[履歴]-[点]-[2244【00】道路標識 規制]をクリックします。
- 6 7
B3をクリックし、点記号の方向をクリックします。



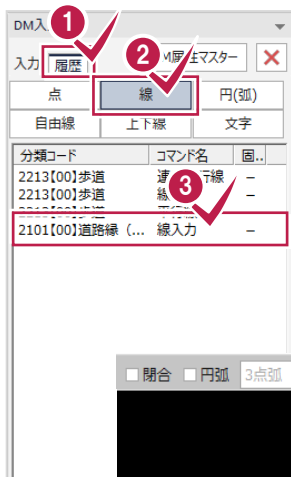
7 DM データの入力③

取り込んだ測点より③の部分(右図参照)のDMデータを入力します。



7-1 線を入力する(C1→C2→C3→C4)

C1、C2、C3、C4を、DM属性を設定した線で結線します。

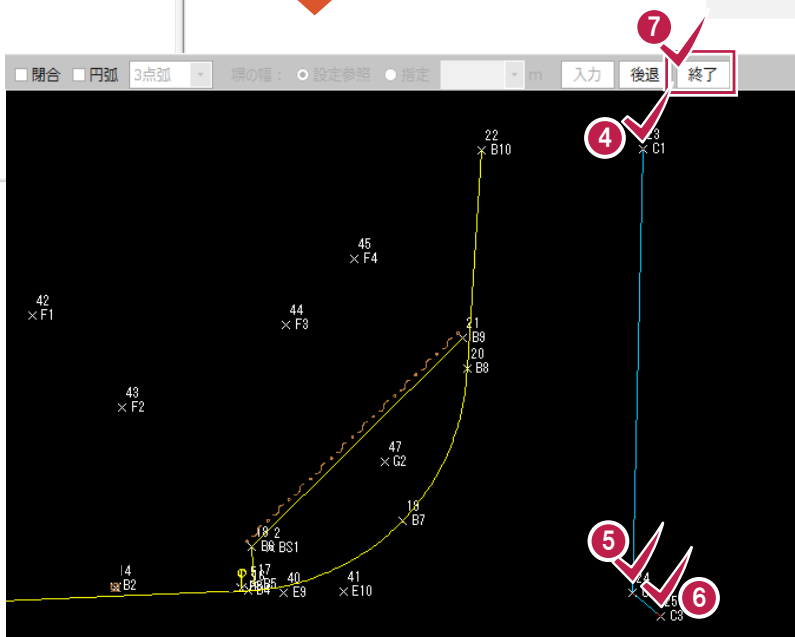


1 2 3

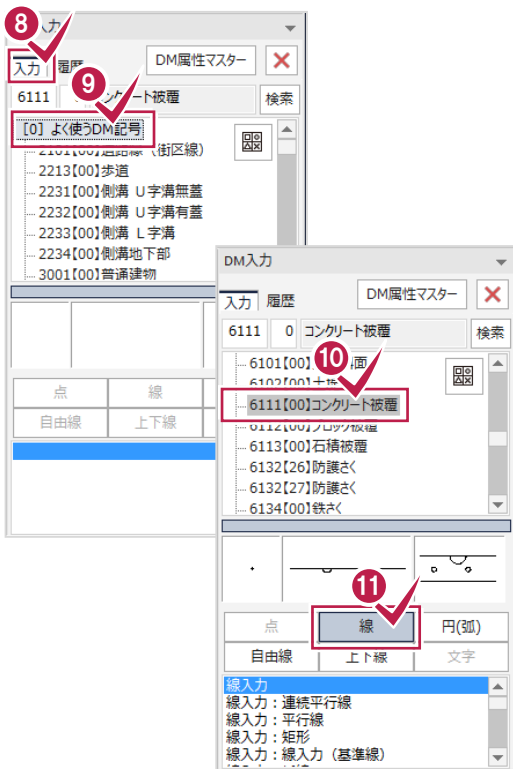
[履歴]-[線]-[2101【00】道路縁(街区線)]をクリックします。

4 5 6 7

C1、C2、C3をクリックし、インプットバーの[終了]をクリックします。



7. DMデータの入力③

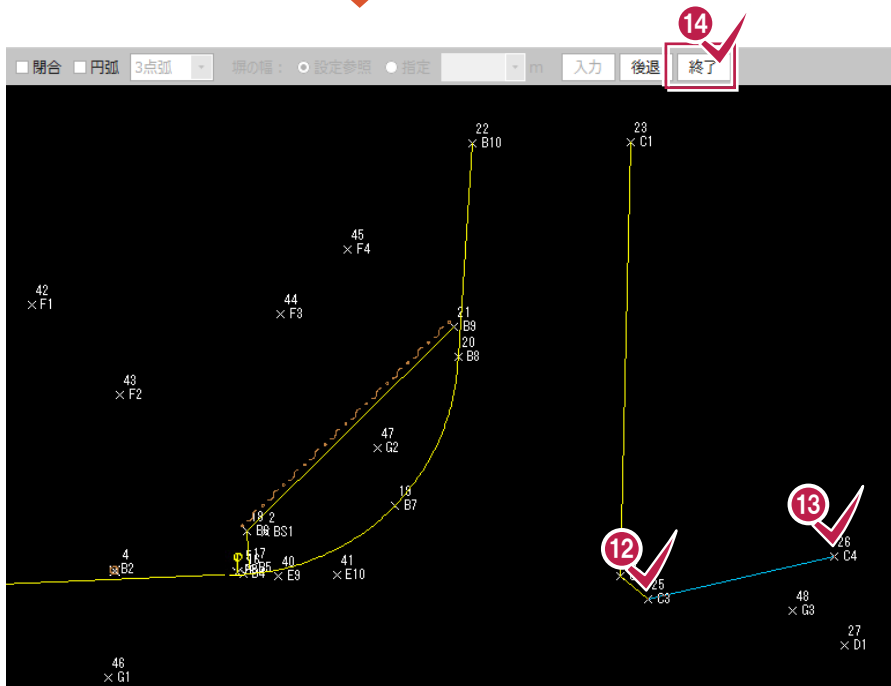


8 9 10 11

[入力]-[[0]よく使うDM記号]-
[6111【00】コンクリート被覆]-
[線]をクリックします。

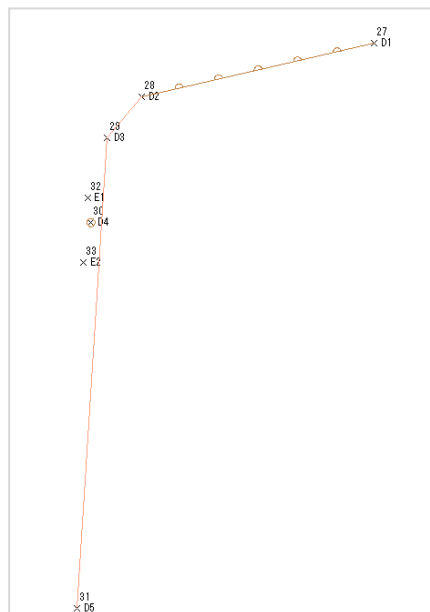
12 13 14

C3、C4をクリックし、インプットバー
の[終了]をクリックします。



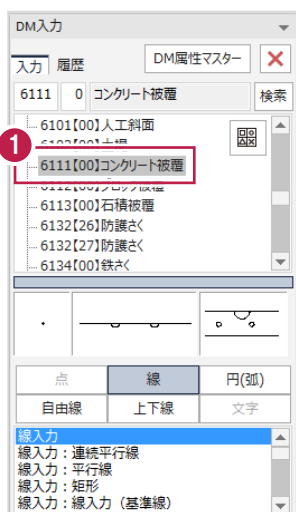
8 DM データの入力④

取り込んだ測点より④の部分(右図参照)のDMデータを入力します。



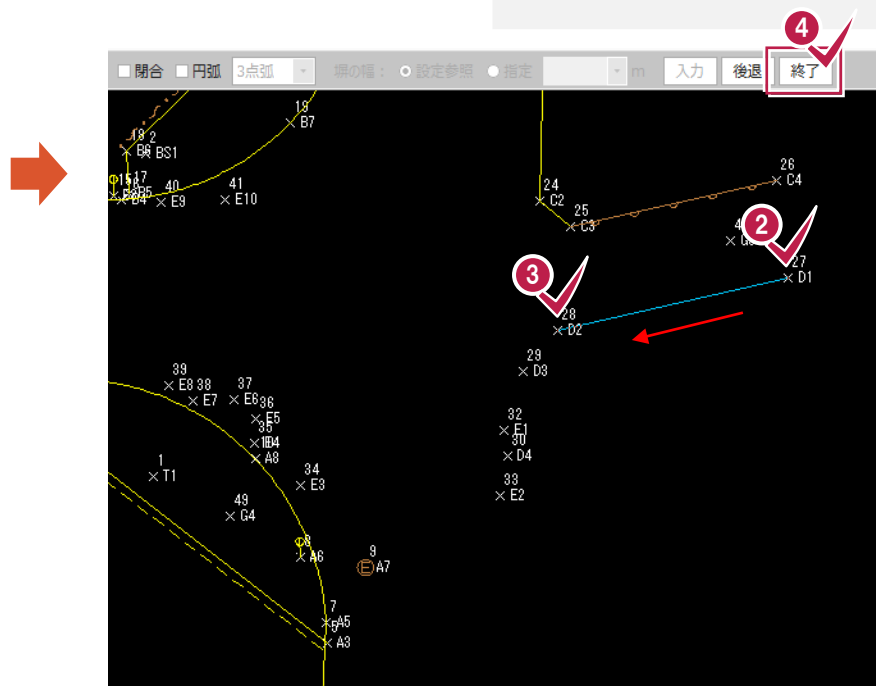
8-1 線を入力する(D1→D2→D3→D5)

D1、D2、D3、D5を、DM属性を設定した線で結線します。

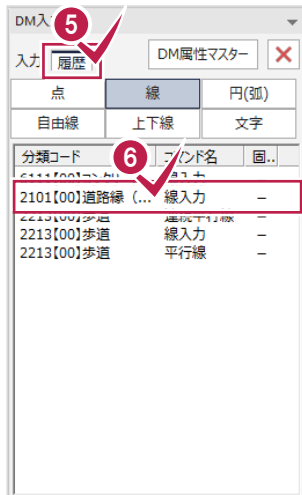


1 2 3 4

[6111【00】コンクリート被覆]が選択されていることを確認してD1、D2をクリックし、[終了]をクリックします。



8. DMデータの入力④

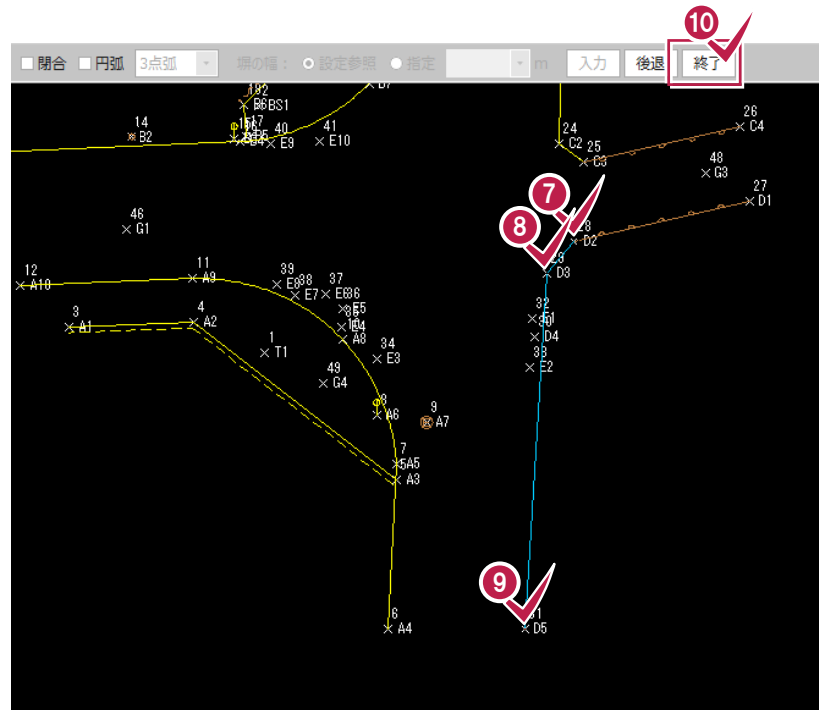


5 6

[履歴]-[2101[00]道路線(街区線)]をクリックします。

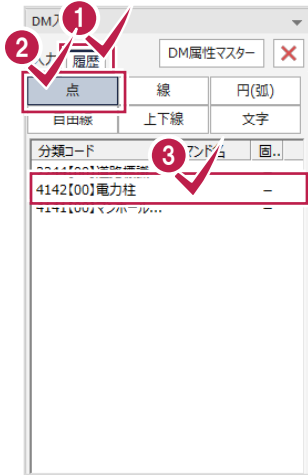
7 8 9 10

D2、D3、D5をクリックし、インプットバーの[終了]をクリックします。



8-2 点記号を入力する(D4)

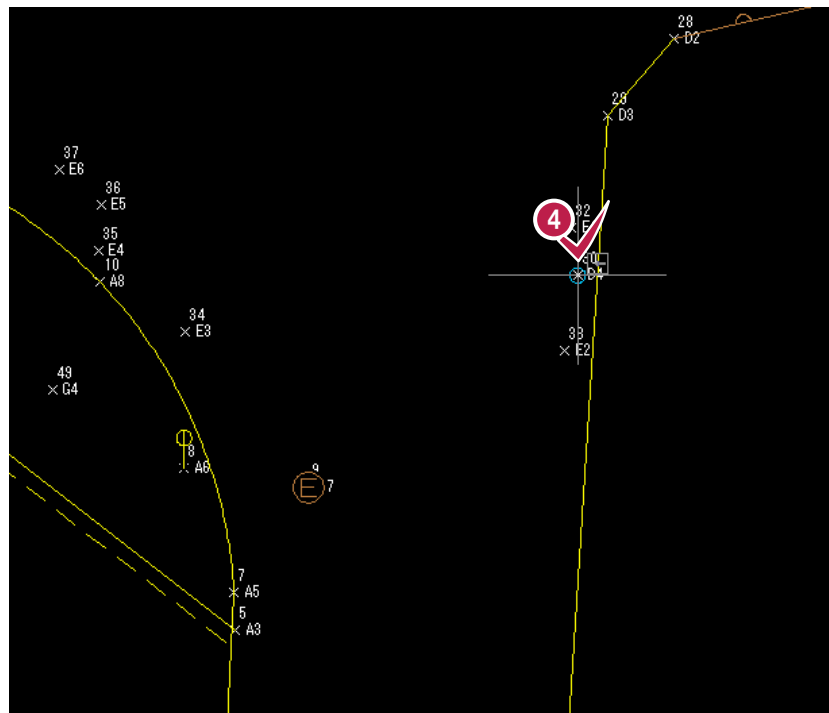
D4に、DM属性を設定した点記号を入力します。



1 2 3

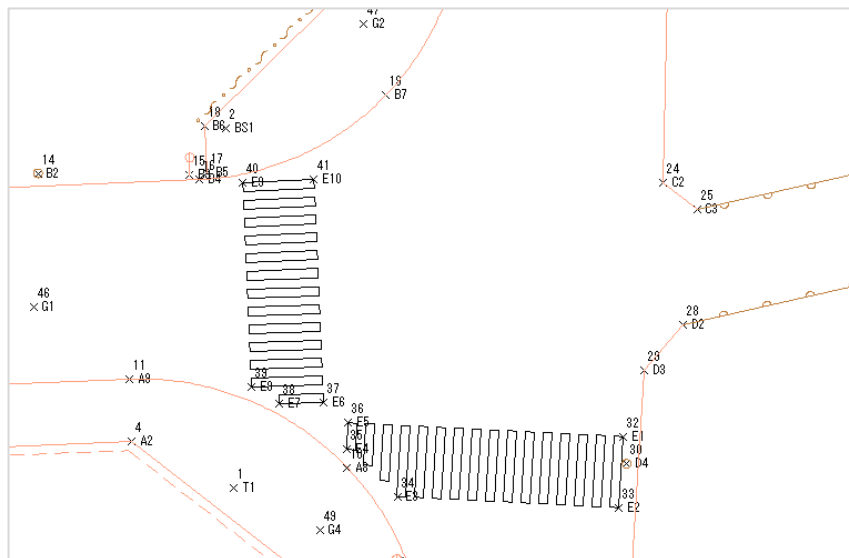
[履歴] - [点] - [4142【00】電力柱] をクリックします。

4 D4をクリックします。



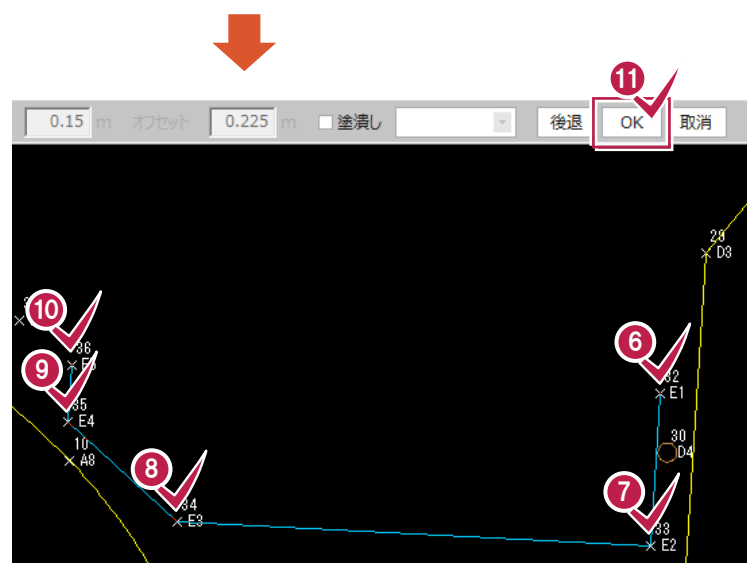
9 横断歩道の入力

取り込んだ測点より横断歩道
(右図参照)を入力します。



9-1 横断歩道を入力する

E1、E2、E3、E4、E5、E6、E7、E8、E9、E10より横断歩道を入力します。



1 2

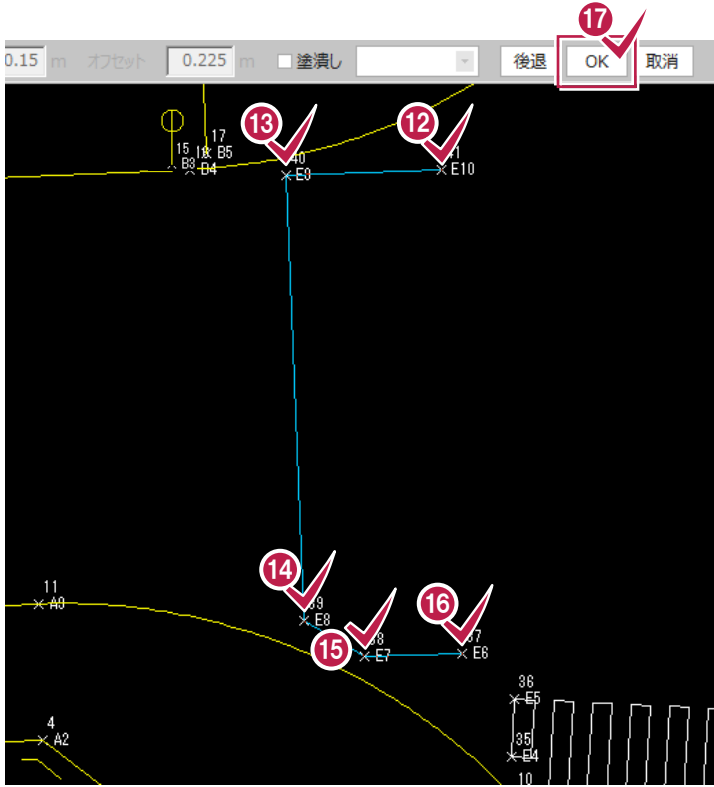
ここでは横断歩道にDM属性を設定しないので、[専用作図]タブ-[現況]グループ-[道路地物作画]をクリックします。

3 4 5

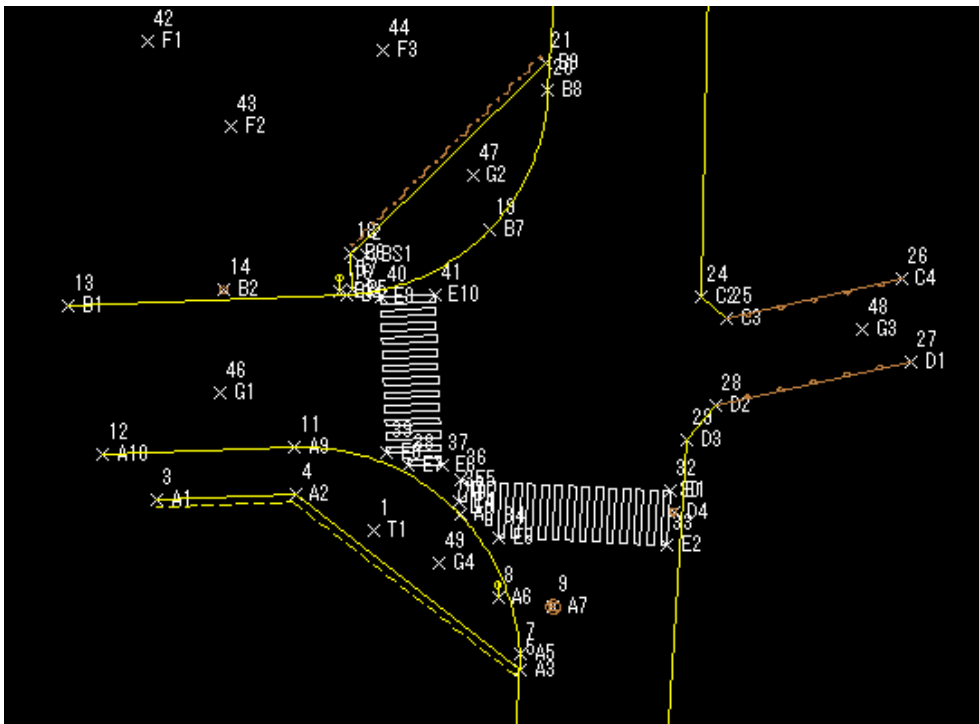
インプットバーで[横断歩道]を選択して[多角形]をクリックし、[白線の太さ]に「0.5」と入力します。

6 7 8 9 10 11

E1、E2、E3、E4、E5をクリックし、インプットバーの[OK]をクリックします。

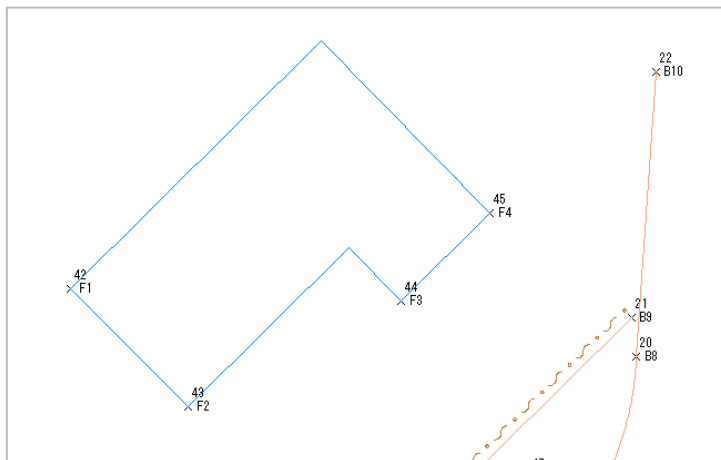


12 13 14 15 16 17
 E10、E9、E8、E7、E6をクリックし、
 インプットバーの[OK]をクリックします。



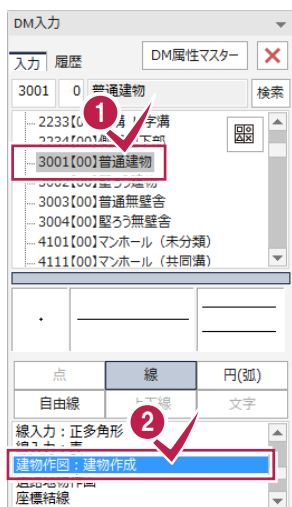
10 建物形状の入力

取り込んだ測点より建物形状(右図参照)を入力します。

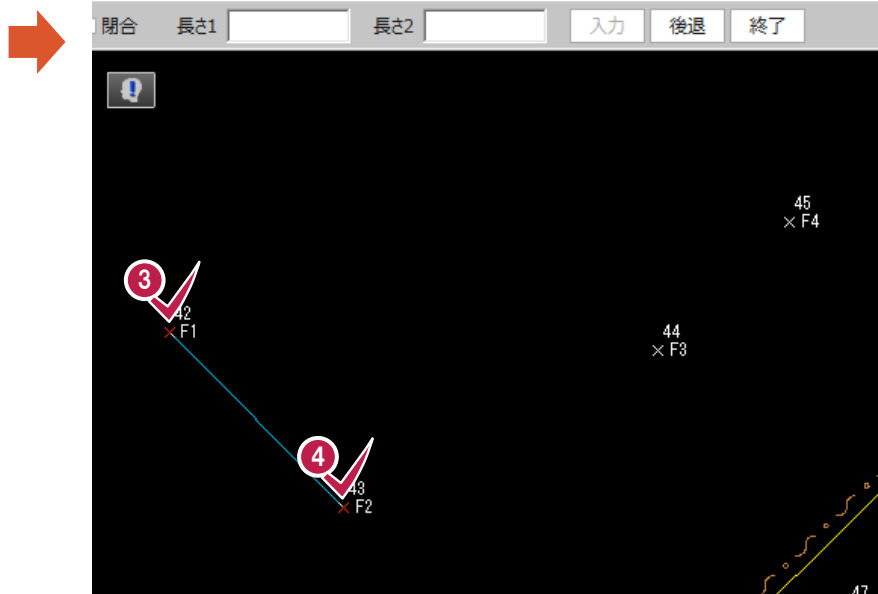


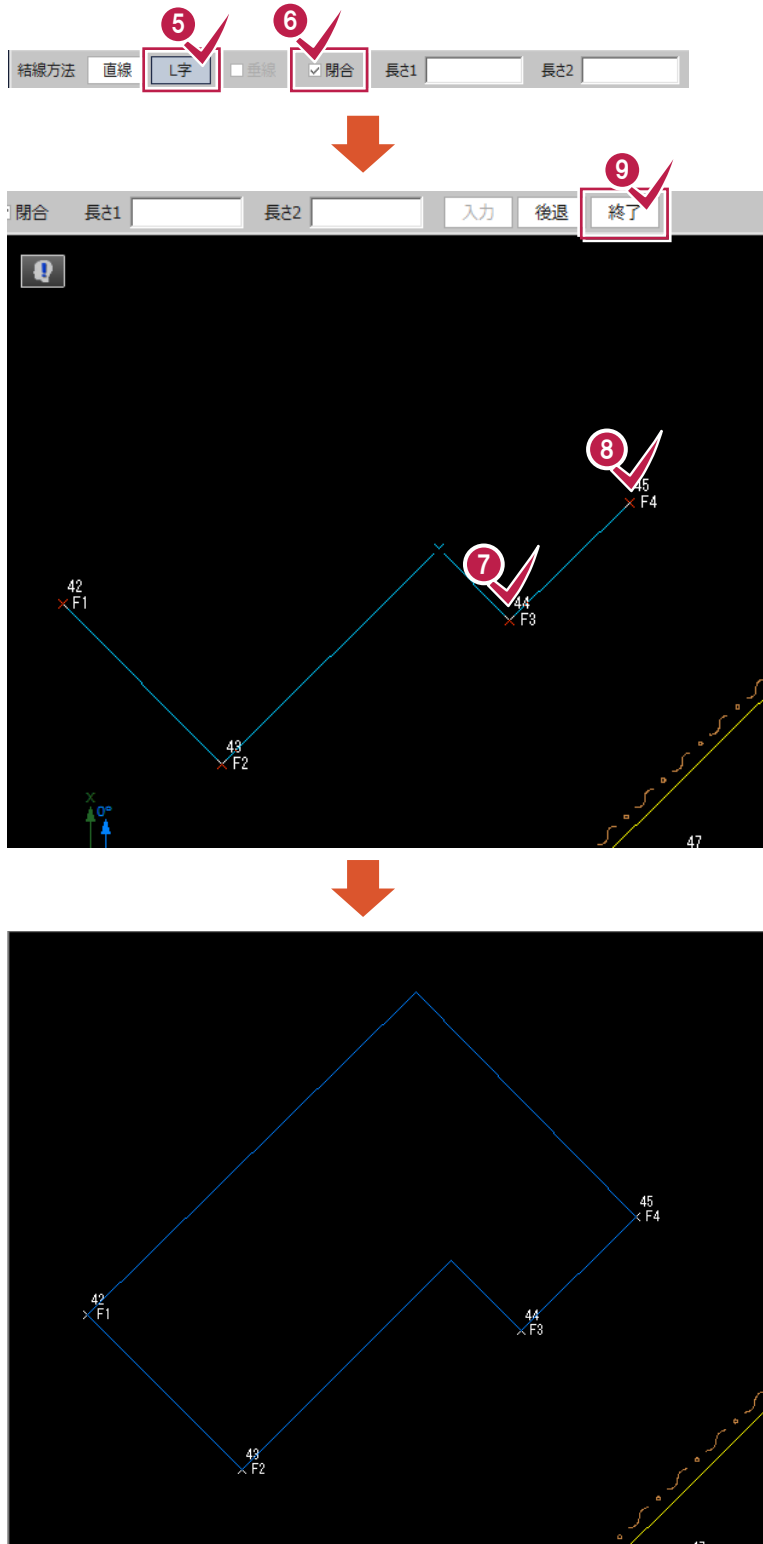
10-1 建物形状を入力する

F1、F2、F3、F4より建物形状を入力します。



- 1 2
[入力]-[【0】よく使うDM記号]
ツリーの「3001【00】普通建物」-
[建物作図: 建物作成]をクリックします。
- 3 4
F1、F2をクリックします。





5 6

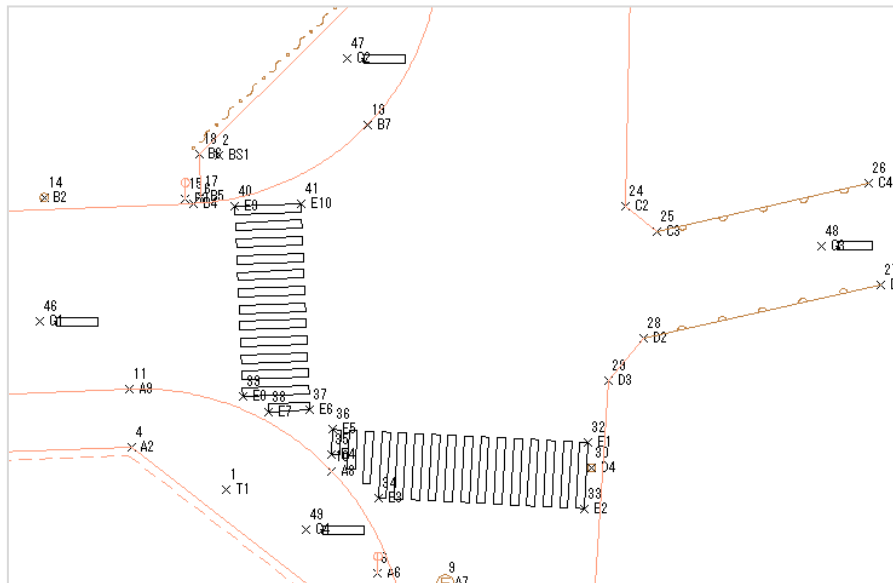
インプットバー[結線方法]の[L字]を選択し、[閉合]のチェックをオンにします。

7 8 9

F3、F4をクリックし、インプットバーの[終了]をクリックします。

11 標高値の入力

取り込んだ測点に標高値
(右図参照)を入力します。



11-1 標高値を入力する

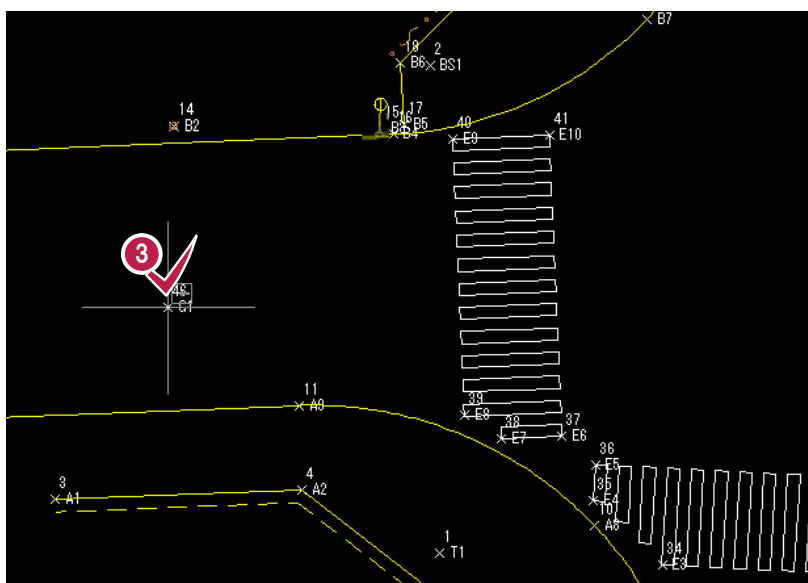
G1、G2、G3、G4に標高値を入力します。

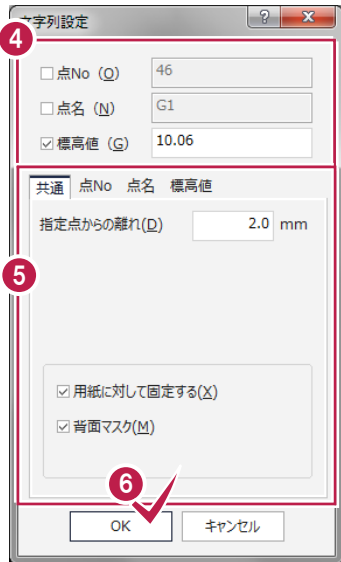


1 2

[作図2] - [個別配置] をクリックします。

3 G1 をクリックします。

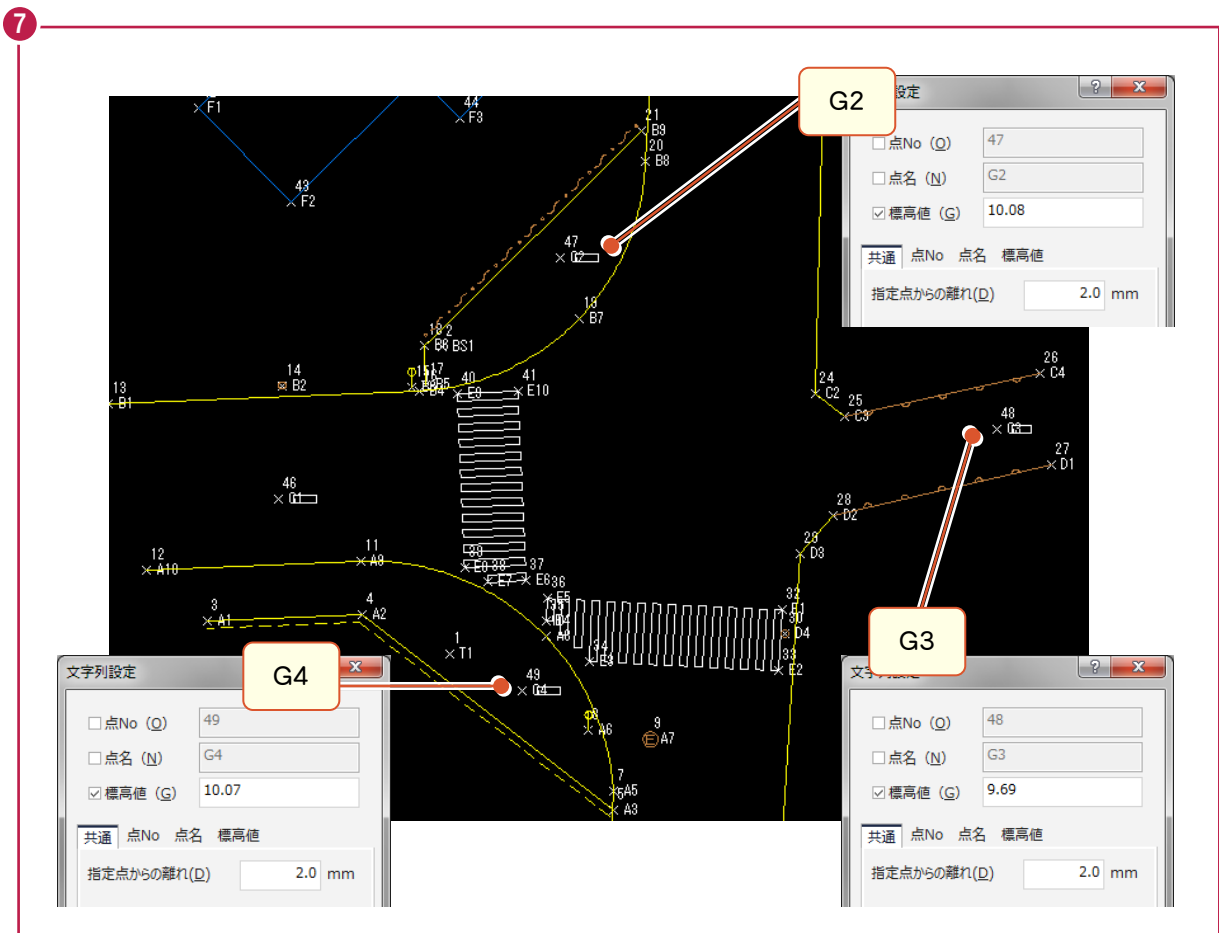
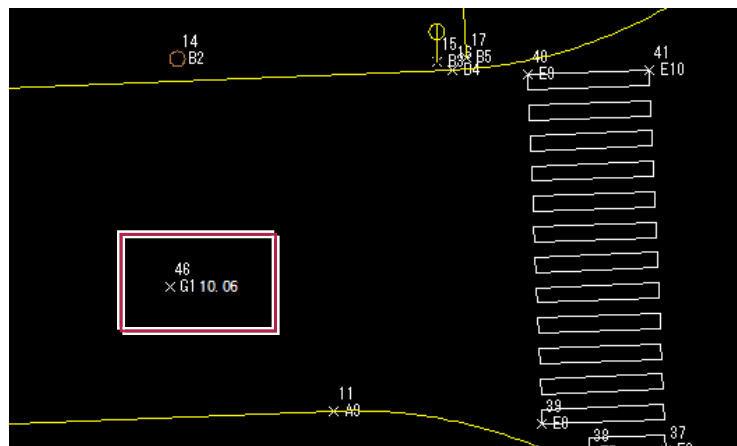




4 [標高値]のチェックのみをオンにして、標高値を入力します。

5 6 [共通][標高値]タブで文字のフォント、文字サイズ、配置位置などを設定し[OK]をクリックします。標高値が入力されます。

7 操作を繰り返して、G2、G3、G4に標高値を入力します。



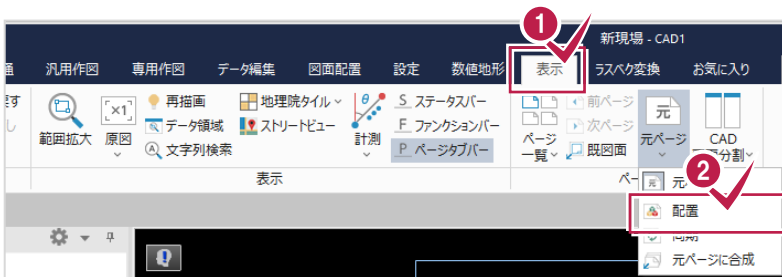
12 図面の自動作成

入力したデータをもとに図面を作成します。

12-1 図面を配置する

用紙サイズ、縮尺、配置位置を決定して図面を配置します。

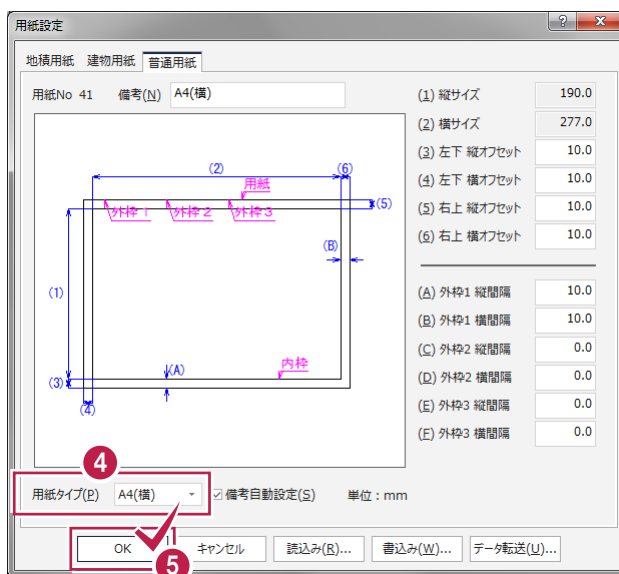
用紙サイズを設定する



- 1 [表示]タブ-[ページ]グループ-[元ページ]-[配置]をクリックします。

- 3 [変更]をクリックします。
[用紙設定]ダイアログが表示されます。

- 4 5 [用紙タイプ]が「A4(横)」に設定されていることを確認し、[OK]をクリックします。



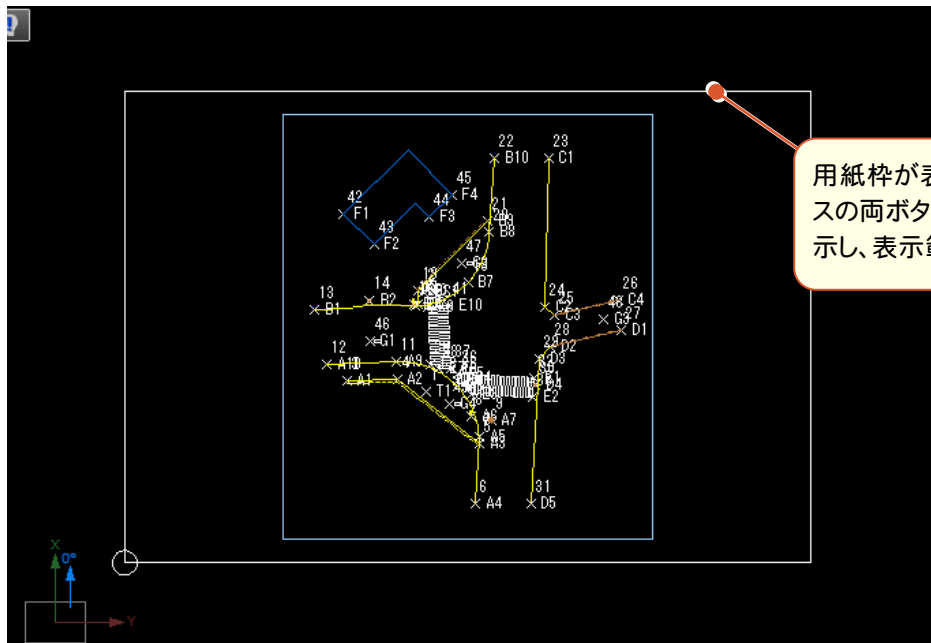
用紙に割付ける

縮尺、配置方法を設定して、図面を用紙に割り付けます。



1 2 3

[縮尺]で「1/500」を、[方法]で「自動」を選択し、[配置]をクリックします。



用紙を割り付けるごとに、タブが増えていきます。

メモ

用紙の割り付けをやり直す場合

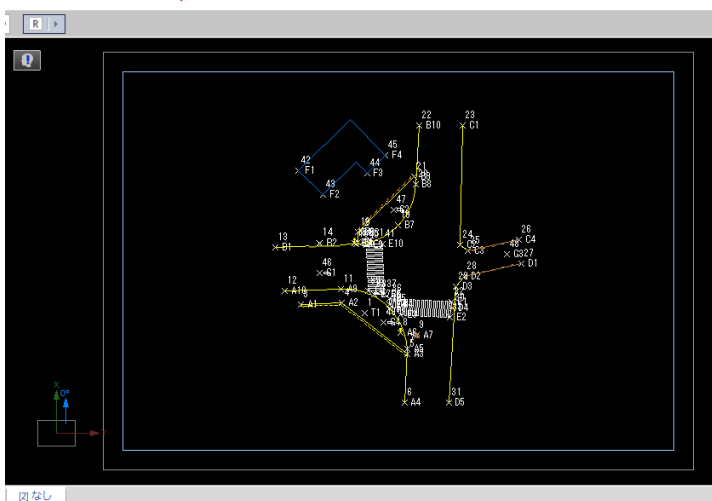
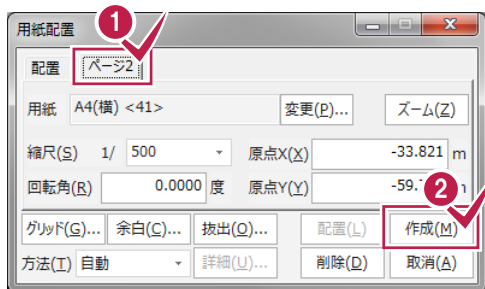
[配置] ボタンをクリックし用紙の割り付けを行うごとに、[用紙配置] ダイアログに配置した用紙(ページ)のタブが増えていきます。

用紙の割り付けをやり直す場合は、再度用紙の割り付けを行うことをお勧めします。

ページ削除を行う場合は、[ページ] タブをクリックしてから[削除] ボタンをクリックしてください。

図面を自動作成する

図面を自動作成します。



1 2

[ページ2]タブをクリックし、[作成]をクリックします。

3

[ページ:一覧]のアイコンをクリックします。

4 5

図面が自動作成されたページ(「ページ2」)をクリックし[OK]をクリックします。
「ページ2」が表示されます。



ページタブについて

ページタブにマウスをおくと、そのページのサムネイルが表示されます。ページの確認が容易にできます。



13 図面の編集

図面を自動作成した後は、図面の細かい編集を行います。

入力例では、線記号の反転、線の延長、余分な線のカットなど、CADの機能を使って図面を仕上げる流れで解説します。

13-1 線記号を反転する

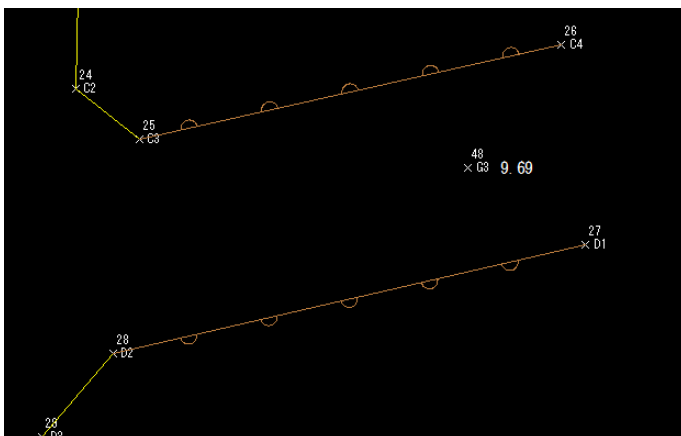
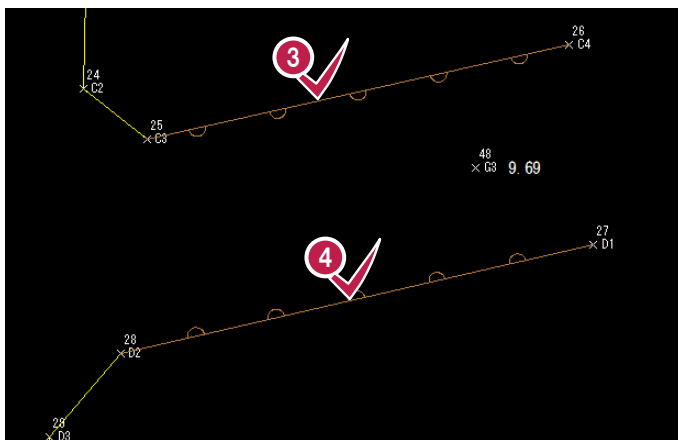


1 2

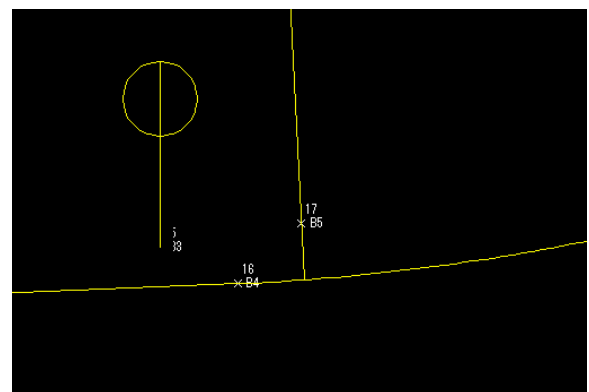
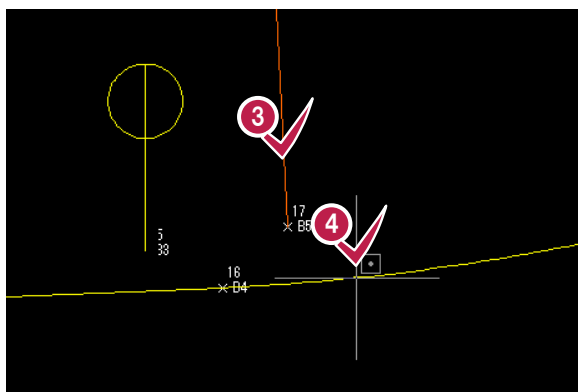
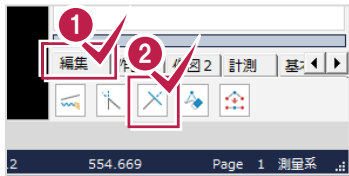
[データ編集]タブ-[線編集]グループ-[線編集]-[線記号反転]をクリックします。

3 4

反転させる線をクリックします。



13-2 線を延長する



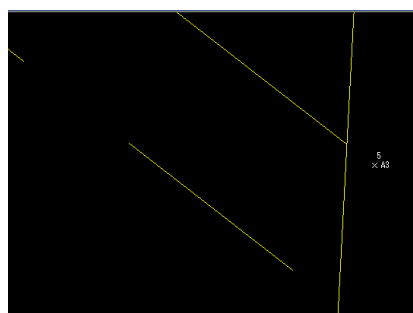
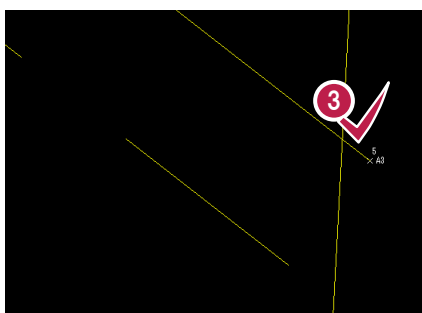
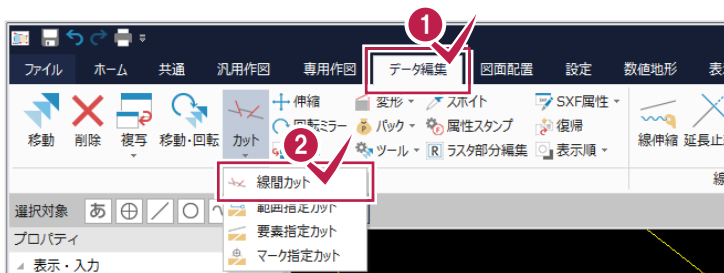
1 2

DMパネルの[編集]タブの[延長止線]をクリックします。

3 4

延長する線、止める線を順にクリックします。

13-3 余分な線をカットする



1 2

[データ編集]タブ-[基本編集]グループ-[カット]-[線間カット]をクリックします。

3

カットする線をクリックします。

14 現場データの保存

ONEでの作業データはメモリ上に保存されているために、[ファイル]タブー[名前を付けて保存]もしくは[ファイル]タブー[上書き保存]を実行するまでハードディスクに保存されていません。

ハードディスクに保存せずに、ONEを終了したり、コンピューターの電源を切ったりするとデータが消滅します。

[上書き保存]と[名前を付けて保存]の違いは、現場ファイル名を変えずにそのとき保存するか、名前を変えて別ファイルに保存するかです。

新規の現場データでは[名前を付けて保存]、内容を変更してそのまま保存する場合は[上書き保存]を選択します。

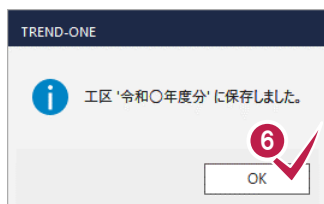
こまめに保存することで、不慮の事故によってシステムダウンした場合に影響が少なく済みます。

作業データを入力・変更したとき、各作業を終了するたびに保存することをお勧めします。

ただし、作業データ単位での保存はできません。

[ファイル]タブー[名前を付けて保存]を実行して複数の作業データを1つの現場データとして保存します。

14-1 現場データを保存する



1 2

[ファイル]タブー[名前を付けて保存]をクリックします。

3

[工区]を確認します。

4

[現場名]を確認します。

現場名には、[現場の新規作成]ダイアログで入力した[現場名]の文字列が表示されます。

5

[保存]をクリックします。

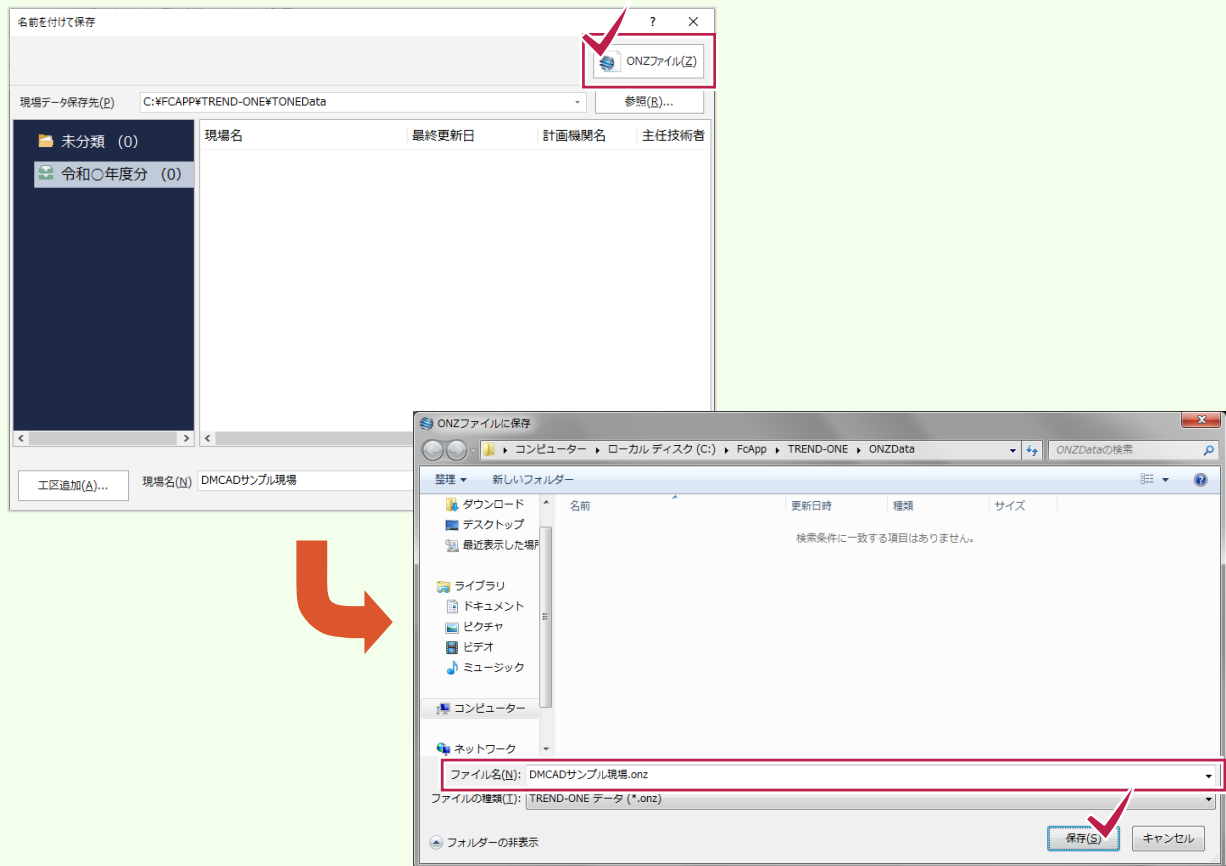
6

[OK]をクリックします。



ONZ ファイルについて

[名前を付けて保存]ダイアログで[ONZ ファイル]を選択すると、データを onz 形式に圧縮して指定したフォルダーに保存することができます。



上書き保存について

上書き保存を実行すると、前回保存したデータに上書きされ、前回のデータはなくなります。

前回のデータを残す場合は、[ファイル]タブ-[名前を付けて保存]を使用してください。

15 図面の印刷

作成した図面を印刷します。

入力例では、[ファイル]タブ-[印刷]でプリンターへ出力します。

15-1 図面を印刷する

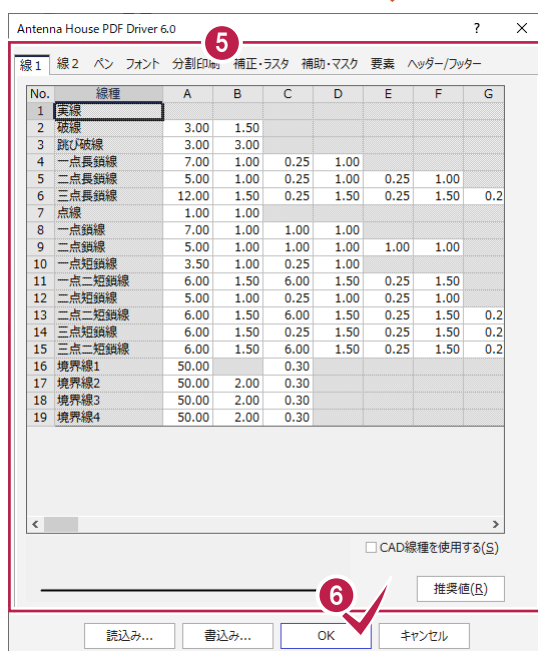


1 2
[ファイル]タブ-[印刷]をクリックします。

3 4
[プリンター]で、使用するプリンターを選択し、[印刷プレビュー]タブ-[印刷]グループ-[出力設定]をクリックします。
選択したプリンターの出力設定に関するダイアログが表示されます。

5 6
各タブをクリックして、プリンターの出力設定を確認し、[OK]をクリックします。
元の画面に戻ります。

7 [印刷]をクリックします。
印刷が実行されます。

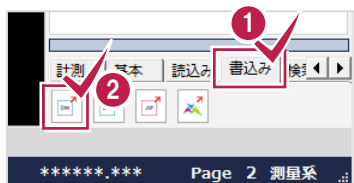


16 拡張 DM データの出力

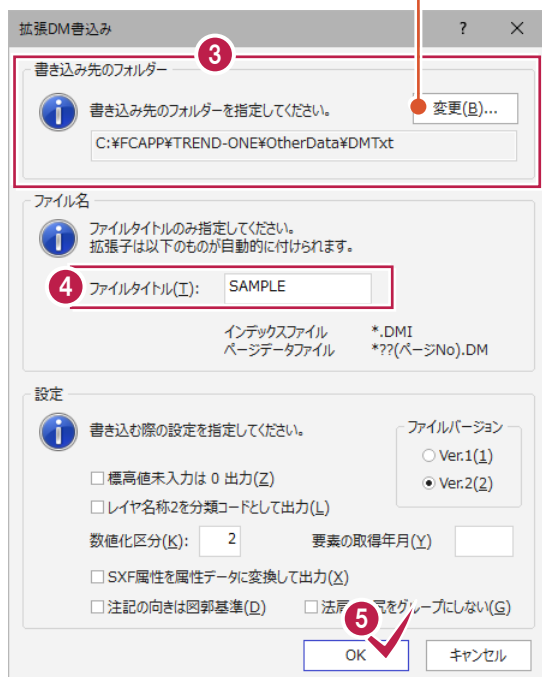
拡張DMデータに変換します。

拡張 DM に関する詳細はヘルプをご覧ください。

16-1 拡張 DM データを出力する



[変更]をクリックして表示される [フォルダーの参照] ダイアログで、書き込み先のフォルダーを変更できます。



1 2

[書き込み] - [拡張DM書き込み] をクリックします。

3 4

書き込み先のフォルダーを確認し、ファイル名を入力します。ただし、タイトルのみで拡張子は入力しません。

5

[OK] をクリックします。指定先フォルダーに、インデックスファイル「ファイル名 .DMI」、ページデータファイル「ファイル名+ページNo.DM」のファイルが作成されます。



拡張 DM データへ変換は、用紙に配置した図面が対象になります。(元ページのデータは対象になりません。)

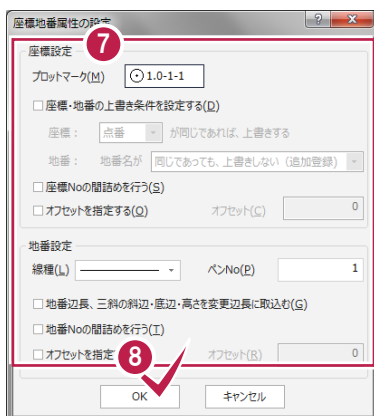
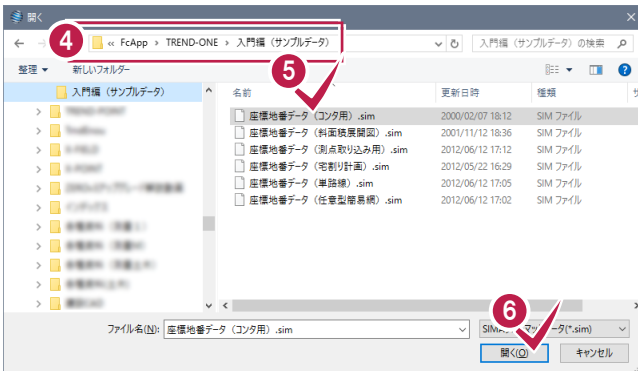
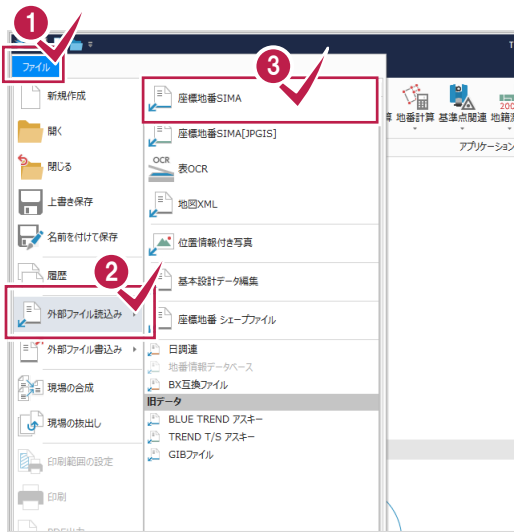
参考 コンタの自動作成

標高を持つ点から自動でコンタ図を作成する手順を解説します。

入力例では、弊社で用意したSIMAデータ「座標地番データ(コンタ用).sim」を使用して解説します。

1 座標地番 SIMA データを読み込む

弊社で用意したSIMAデータ「座標地番データ(コンタ用).sim」を読み込みます。

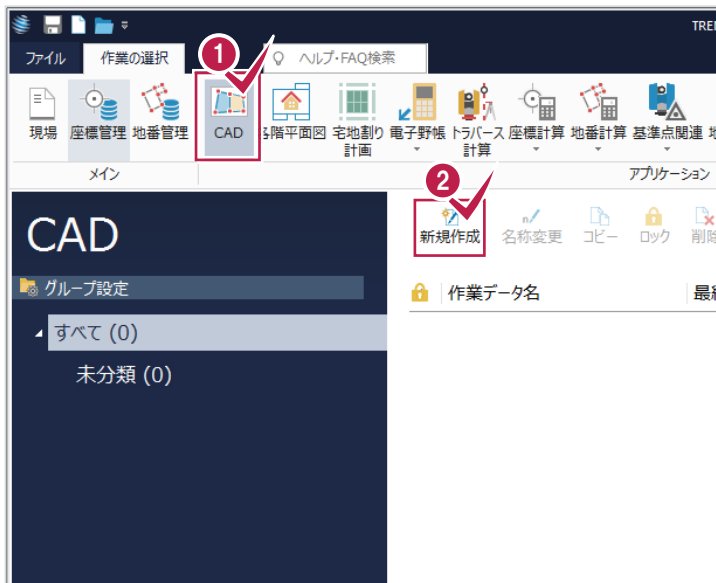


- 1 2 3 [ファイル]タブ-[外部ファイル読み込み]-[座標地番SIMA]をクリックします。
- 4 ファイルの場所を選択します。
- 5 6 「座標地番データ(コンタ用).sim」をクリックし、[開く]をクリックします。
- 7 8 座標や地番に関する設定を確認し [OK]をクリックします。
- 9 [OK]をクリックします。

2

[CAD]を起動する

[CAD]を起動します。

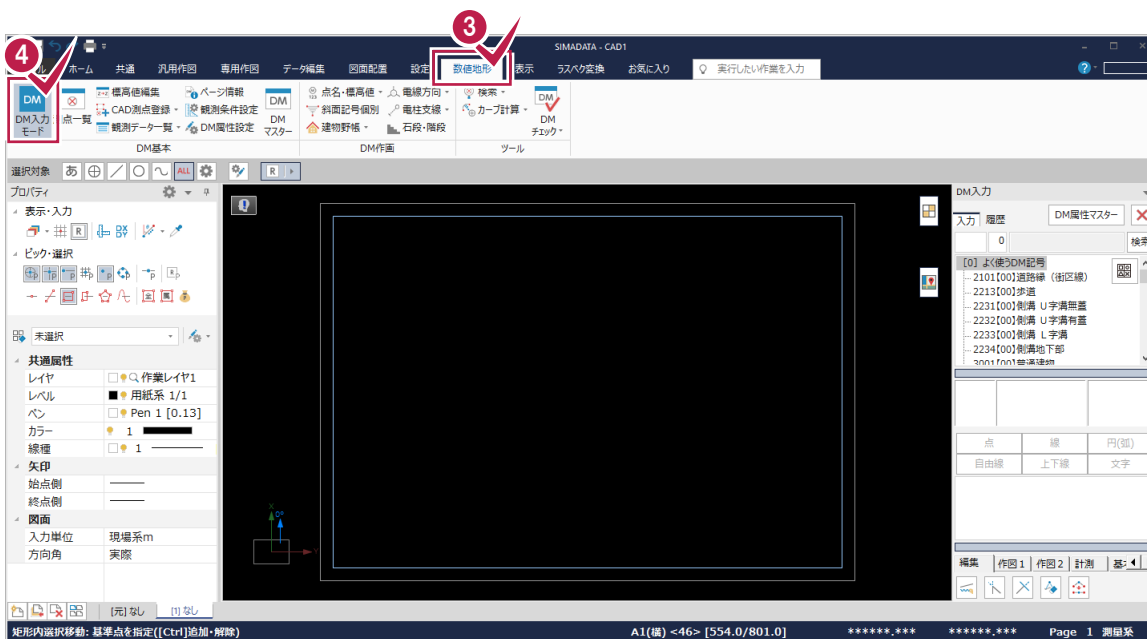


1 2

メインメニューで[作業の選択]タブ-[アプリケーション]グループ-[CAD]をクリックし、[新規作成]をクリックします。

3 4

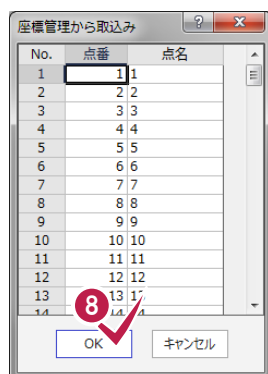
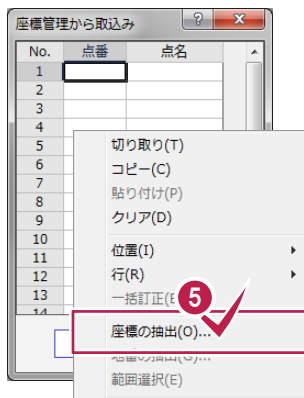
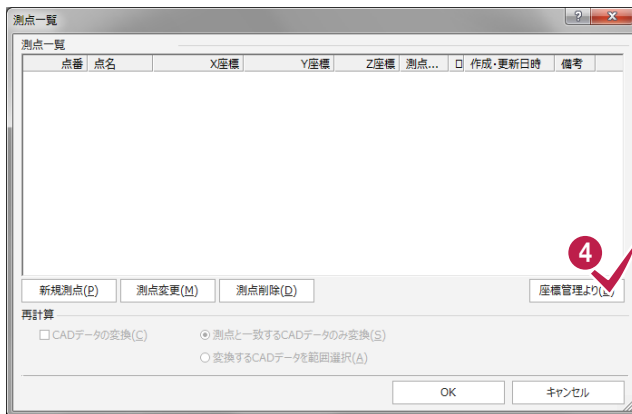
[数値地形]タブ-[DM基本]グループ-[DM入力モード]をクリックします。DM入力専用のDMパネルが表示されます。



3

測点を入力する

座標点より測点を入力します。



1 2 3

ページタブバーで[元]ページに切り替え、専用コマンドの[基本]-[測点一覧]をクリックします。

4 [座標管理より]をクリックします。

5 [点番]または[点名]セルを右クリックして[座標の抽出]をクリックします。
[座標抽出]ダイアログが表示されます。

6 7 [座標抽出]タブの[抽出条件]で[全て]が選択されていることを確認して[抽出実行]をクリックします。

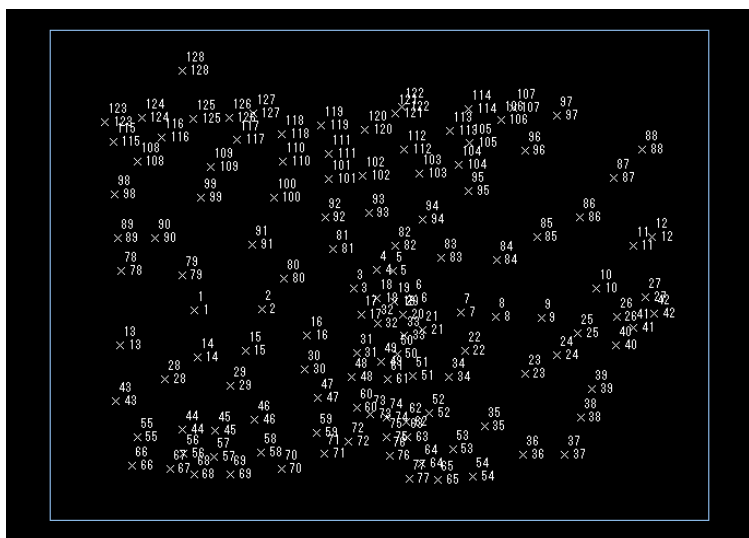
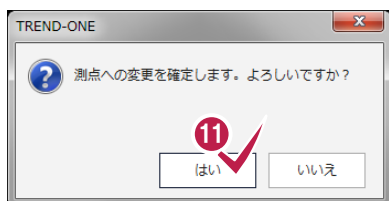
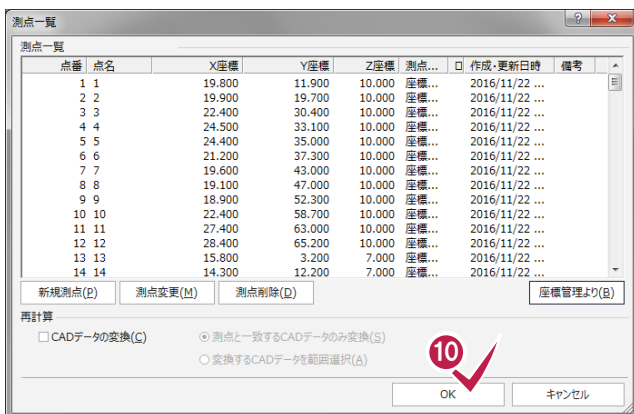
8 [OK]をクリックします。



9 取り込む座標を確認して[OK]をクリックします。
[測点一覧]ダイアログへ戻ります。

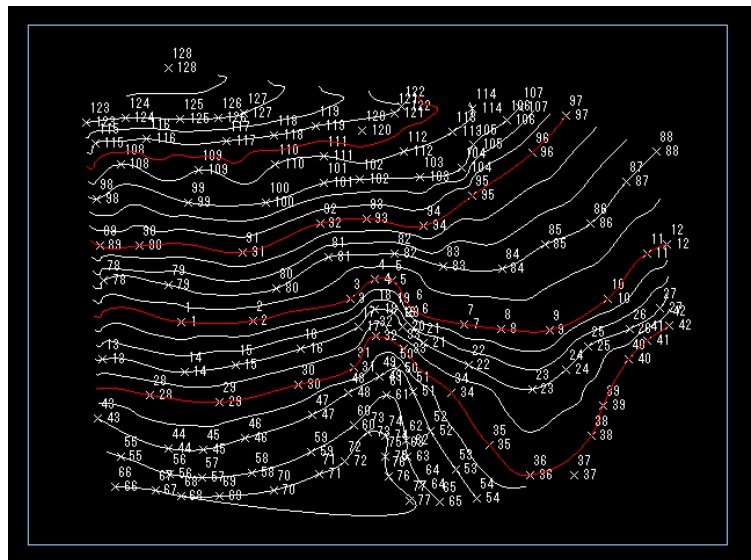
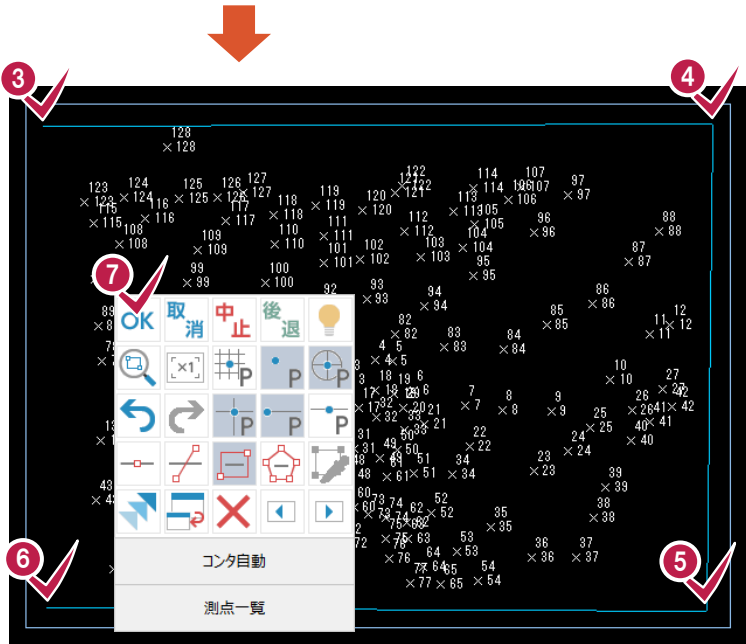
10 [OK]をクリックします。
確認のメッセージが表示されます。

11 [はい]をクリックします。
測点が入力されます。



4 コンタ線を自動入力する

入力した測点よりコンタ線を自動入力します。



1 2

DMパネルの[作図1]–[コンタ自動入力]をクリックします。

3 4 5 6 7

CAD上でコンタ線を入力する範囲を囲むように指定し、右クリックして[OK]をクリックします。
[コンタ線自動入力]ダイアログが表示されます。

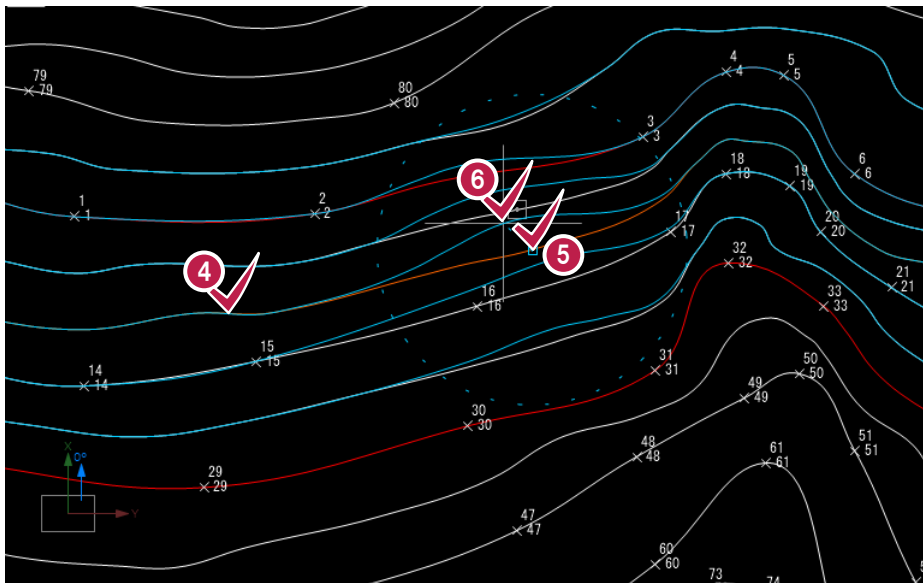
8 9

各項目を設定し[OK]をクリックします。
コンタ線が自動入力されます。

5

コンタ線を範囲移動する

コンタ線の通過点を指定して、編集範囲にあるコンタ線の通過点も移動します。



1 2

[汎用作図]タブ-[曲線]グループ-[コンタ]-[コンタ範囲移動]をクリックします。

3

[編集範囲]を指定します。

4 5 6

自由曲線を選択し、通過点を指定して、移動先をクリックします。